

第1部 本道の生涯学習の現状

1 生涯学習に関する道民の意識

◆ 調査の概要

- ・ 調査目的：道民の生涯学習に対する考え方や実態の把握
- ・ 調査期間：平成30年1月24日（水）～2月23日（金）
- ・ 調査対象：道内各市町村在住の住民（各市町村7名）1,246人
- ・ 回収率：99.2%（有効回答数 1,236人）

◆ 調査の項目

問1 この1年くらいの間に「生涯学習」を行った、または行っているか。	
行っていない	行った
	<p>問1-1 その学習活動をどのような場所や形態で行ったか。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 公民館や生涯学習センターなどの公的な機関における講座や教室 2 カルチャーセンターやスポーツクラブなど民間の講座や教室、通信教育 3 学校（高等学校、大学、大学院、専門学校など）の公開講座や教室 4 学校（高等学校、大学、大学院、専門学校など）の正規課程 5 職場の教育、研修 6 同好会が自主的に行っている集まり、サークル活動 7 図書館、博物館、美術館 8 テレビやラジオ 9 情報端末やインターネット 10 自宅での学習活動（書籍など） 11 ボランティア活動など地域での活動をとおしての学習
	<p>問1-2 この1年くらいの間に行った学習活動の内容は何か。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 趣味的なもの（音楽、美術、華道、舞踊、書道、レクリエーション活動など） 2 教養的なもの（文化、歴史、科学、語学など） 3 社会問題に関するもの（社会・時事、国際、環境など） 4 健康・スポーツ（健康法、医学、栄養、ジョギング、水泳など） 5 家庭生活に役立つ技能（料理、洋裁、和裁、編み物など） 6 育児・教育（家庭教育、幼児教育、教育問題など） 7 就職や転職のために必要な知識・技能（就職や転職に関係のある知識の習得や資格の取得など） 8 職業において必要な知識・技能（仕事に関係のある知識の習得や資格の取得など） 9 情報通信分野の知識・技能（プログラムの使い方、ホームページの作り方など） 10 ボランティア活動のために必要な知識・技能 11 自然体験や生活体験などの体験活動
	<p>問1-3 学習活動を通じて身につけた知識・技術や経験をどの程度生かしているか。 <small>（生かしている－どちらかと言えば生かしている－どちらとも言えない－どちらかと言えば生かしていない－生かしていない）</small></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 仕事や職業で生かしている 2 資格の取得に役立っている 3 まちづくりやボランティア活動などに生かしている 4 子供たちを育むための活動に生かしている 5 他人（子供たちを除く）の学習やスポーツ活動、文化活動などの指導に生かしている 6 自分の人生をより豊かにしている 7 自分の健康維持・増進に役立っている
問2 ①現在の生活に満足しているか。②生きがいを感じて生活しているか。	
<p>問3 地域の生涯学習の実態についてどのように捉えているか。 <small>（そう思う－どちらかと言えばそう思う－どちらとも言えない－どちらかと言えばそう思わない－そう思わない）</small></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 自分のまちに、学習した成果を生かす場がもっとあればよいと思う 2 自分のまちでは、住民が自ら学習に取り組もうとする人が多いと思う 3 自分のまちでは、インターネットを活用した学習やそれを支援する仕組みが充実していると思う 4 自分のまちでは、役場などの行政機関が、NPOやボランティア団体と協働した取組を活発に行っていると思う 5 自分のまちでは、自治会・町内会などの活動が活発に行われていると思う 6 自分のまちには、子供たちが多様な体験活動をする場や機会が多いと思う 7 自分のまちでは、子供たちの読書活動が充実していると思う 8 自分のまちでは、子供たちが異年齢・異世代と交流する場や心を落ち着けられる居場所が充実していると思う 9 自分のまちでは、多くの地域住民が子供たちの活動に関わりを持っていると思う 10 自分のまちでは、家庭教育や子育てに関する学習・相談の機会が充実していると思う 	
<p>問4 日常生活の中の課題について、どのように捉えているか。 <small>（大きな課題である－どちらかと言えば課題である－どちらとも言えない－どちらかと言えば課題とは思わない－課題ではない）</small></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 地球温暖化や自然環境の保全など、環境に関すること 2 安全・安心な食材や望ましい食生活に関すること 3 異文化の理解や交流など、国際理解に関すること 4 介護や孤独死、地場産業の担い手不足など、超高齢社会に関すること 5 災害の危険性に関する理解や共助体制など、防災に関すること 6 女性の人権尊重や社会進出の促進など、男女平等参画に関すること 7 犯罪や交通事故、疾病など、安全・安心な暮らしに関すること 8 悪質な販売方法や特殊詐欺など、消費者教育に関すること 9 児童虐待やプライバシーの侵害など、人権に関すること 10 だれもが暮らしやすいまちづくりに関すること 11 ボランティアや地域の活性化など、地域活動に関すること 12 家庭の経済や生活環境、学習機会の格差など、子どもの貧困に関すること 	

問5 次の支援についてどのように思うか。

(参加したことがあり、今後も参加したい-参加したことがないが、今後は参加してみたい-参加したことがあるが、今後は参加したくない-参加したことがなく、今後も参加したくない)

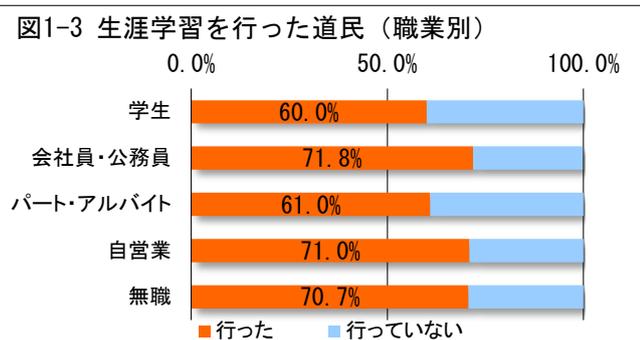
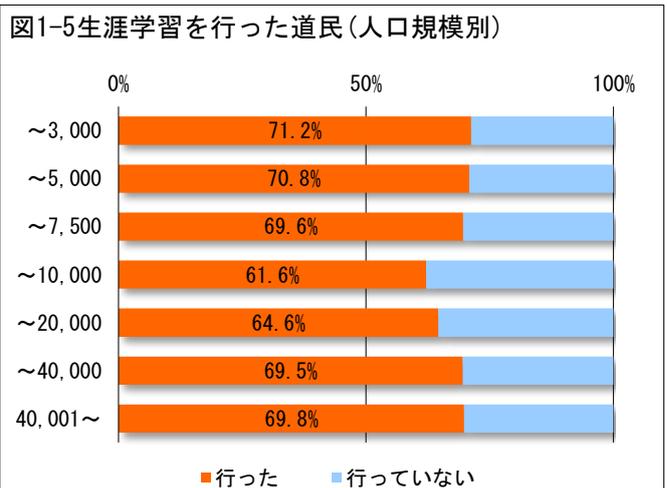
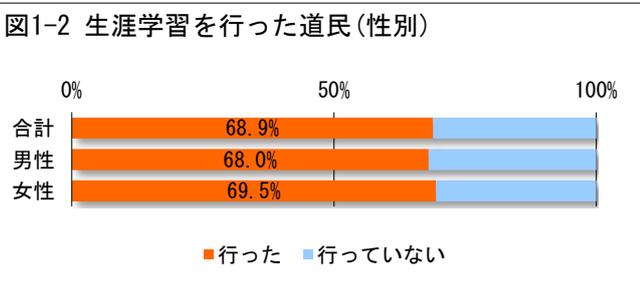
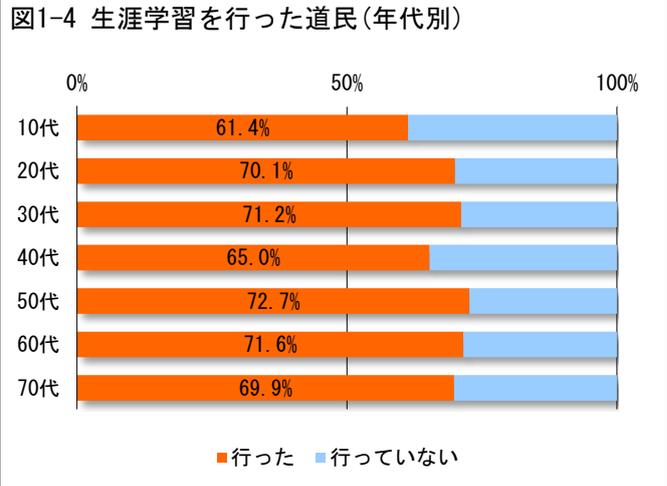
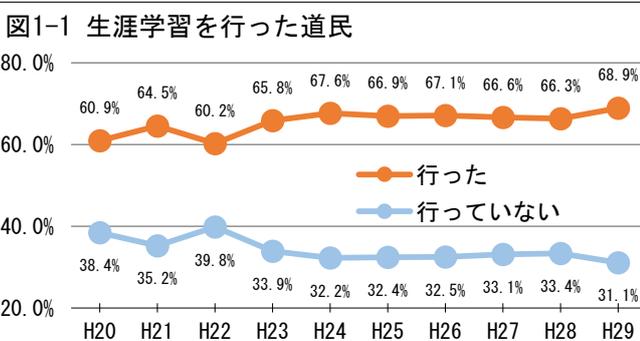
- 1 学校教育を支援する活動
- 2 生活課題を抱える人や子育てなどを支援する活動
- 3 まちづくりや災害などを支援する活動
- 4 自然保護、リサイクル運動などを支援する活動

問6 機会があれば再び学びたいと思うもの

- 1 日本語による実用的な文章表現やコミュニケーションの方法に関すること
- 2 文学や古典（古文や漢文）の理解に関すること
- 3 日本や世界の歴史・地理に関すること
- 4 法律や政治、経済、国際関係に関すること
- 5 宗教や哲学に関すること
- 6 心理学に関すること
- 7 自然科学や数学に関すること
- 8 健康やスポーツに関すること
- 9 芸術文化（音楽、芸術など）に関すること
- 10 外国語に関すること
- 11 消費生活、衣食住などに関すること
- 12 情報通信分野（プログラムの使い方、ホームページの作り方など）に関すること
- 13 工業技術（情報通信に関するものを除く）に関すること
- 14 農林水産業に関すること
- 15 経営ビジネス（起業、財務会計やマーケティングなど）に関すること
- 16 医療や福祉（子育て、保育、介護など）に関すること

- 市町村名
- 性別（男・女）
- 年代（10代・20代・30代・40代・50代・60代・70代）
- 職業（学生、会社員・公務員、パート・アルバイト、自営業、無職）
- 「まちづくり」や「むらおこし」などのボランティア団体やNPO等への所属
- 道民カレッジの受講

(1) 生涯学習に取り組んでいる割合



- 「生涯学習」に取り組んだ道民は68.9%で、平成23年以降は60%台後半で推移しています。(図1-1)
- 職業別では会社員・公務員、自営業、無職の方の取り組み率が高い傾向となりました。(図1-3)
- 年代別では、10代及び40代が他の年代と比較すると低い傾向となっています。(図1-4)

(2) 学びの場所

図2-1 生涯学習を行った場所(性別)

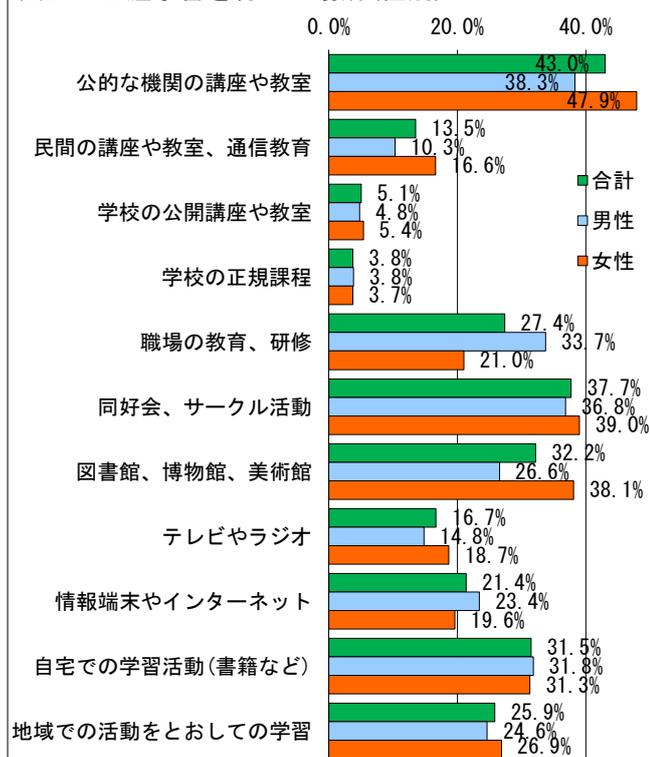


図2-2 生涯学習を行った場所(年代別)

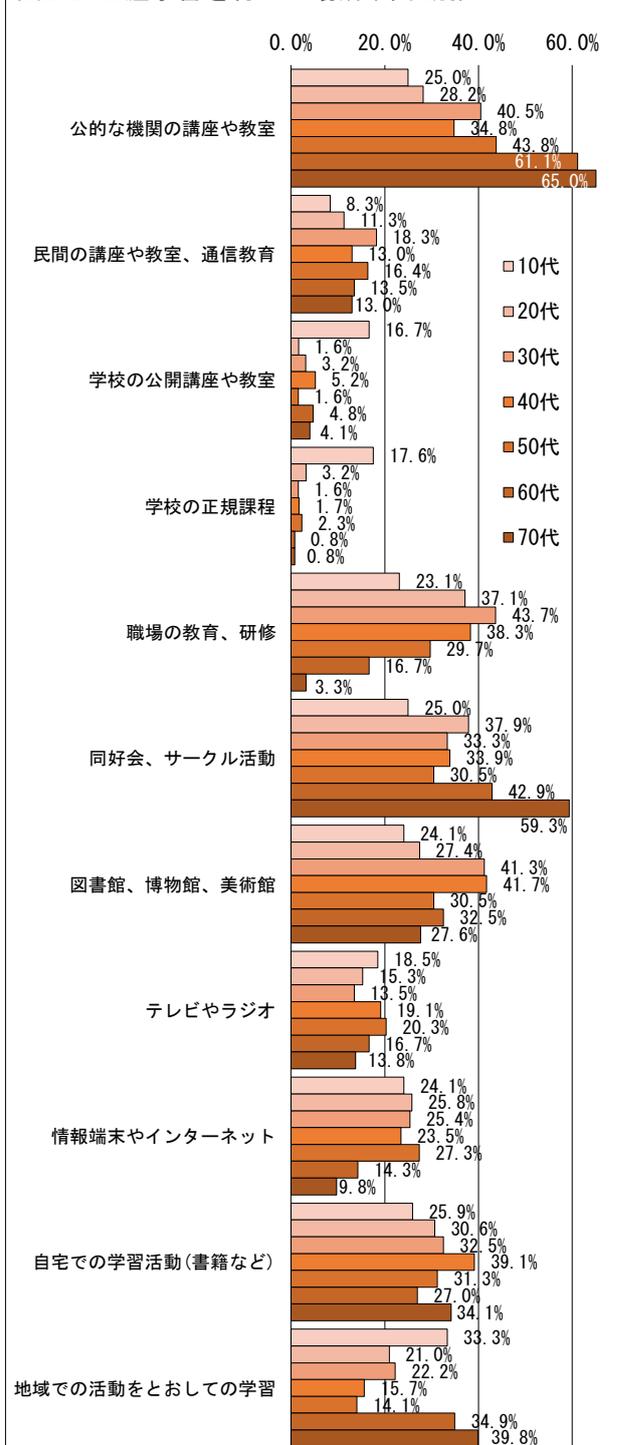
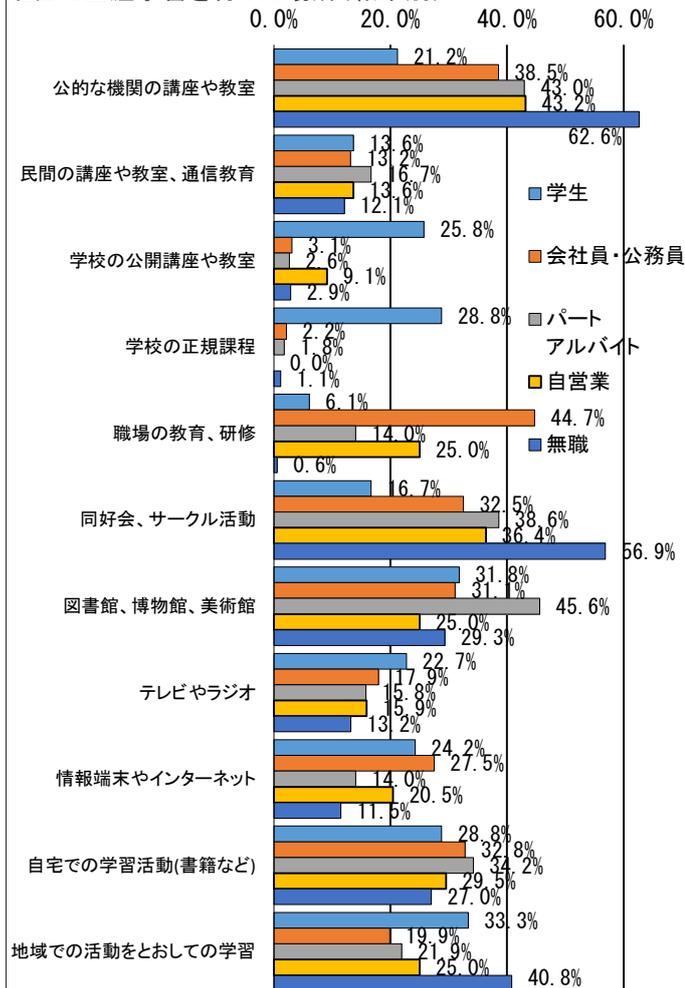


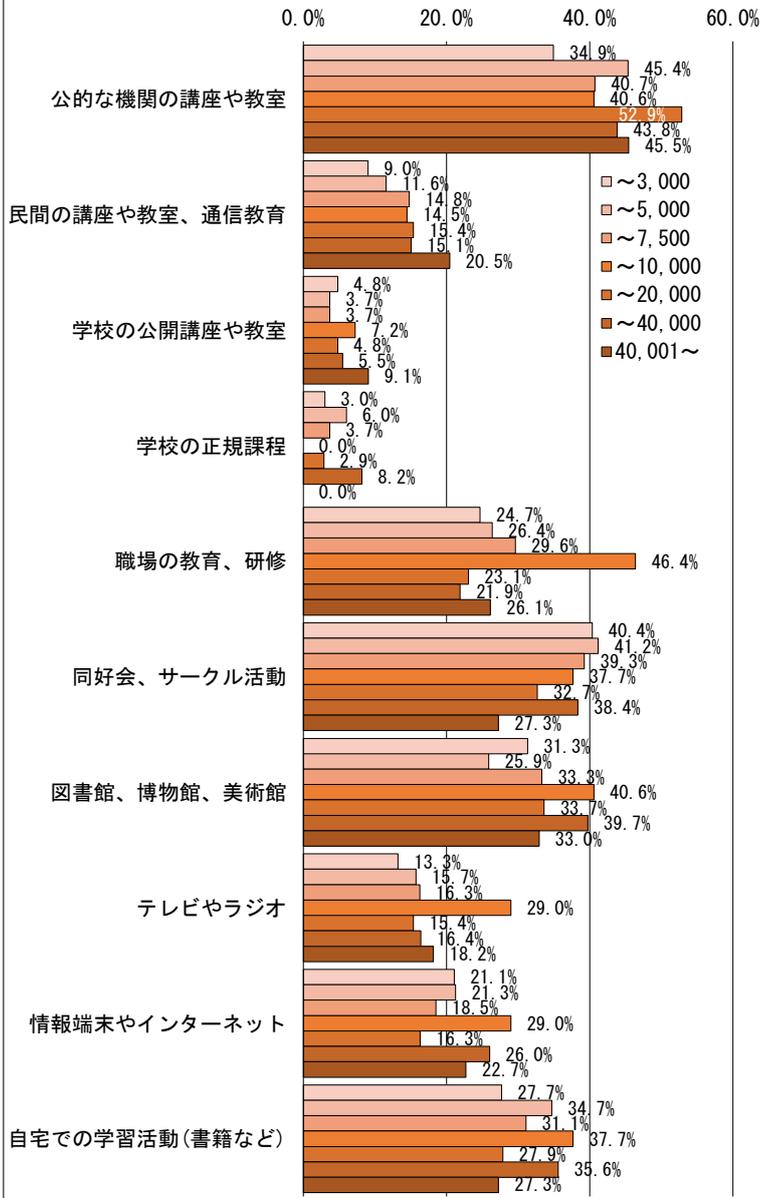
図2-3 生涯学習を行った場所(職業別)



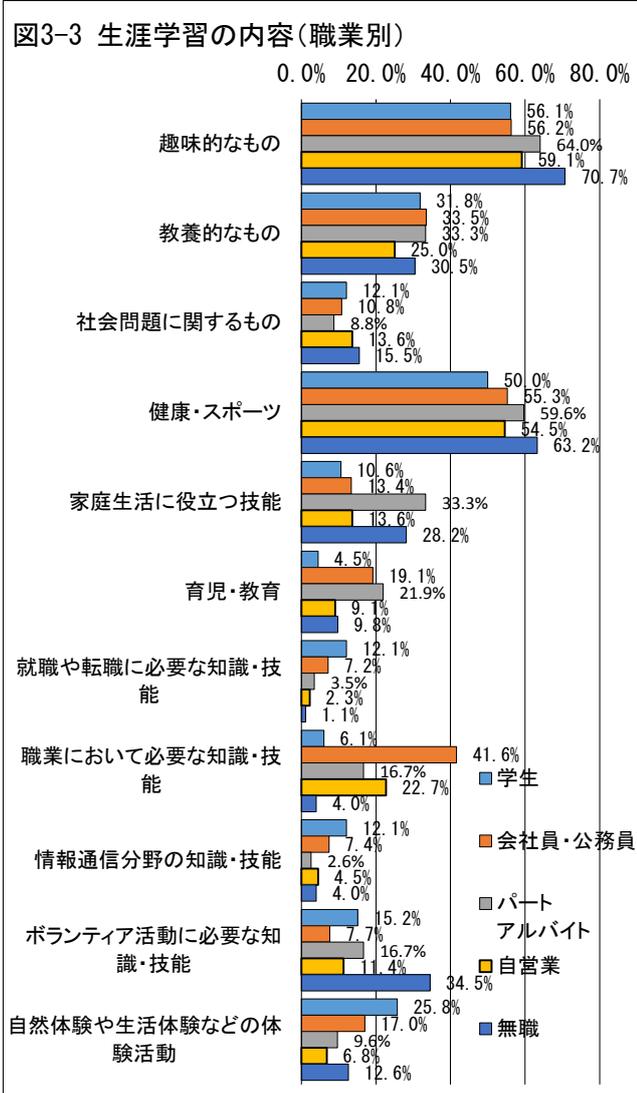
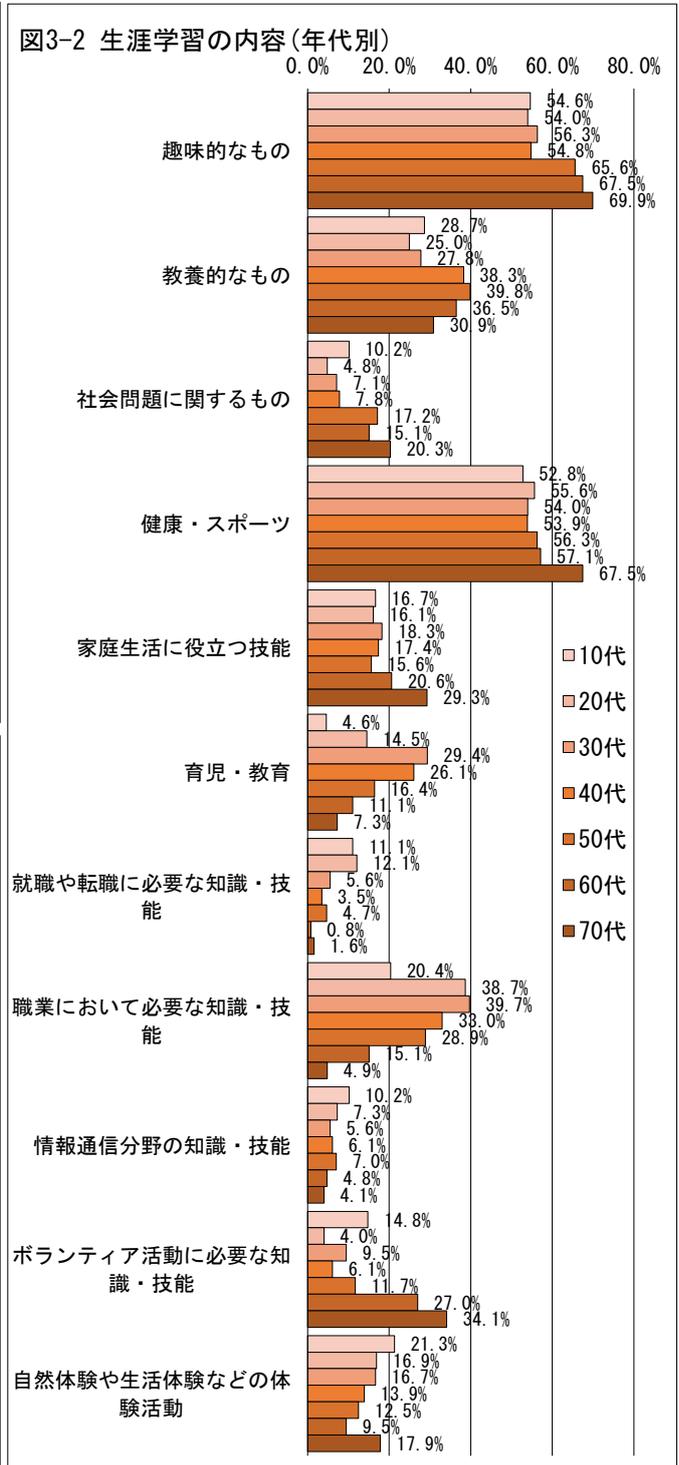
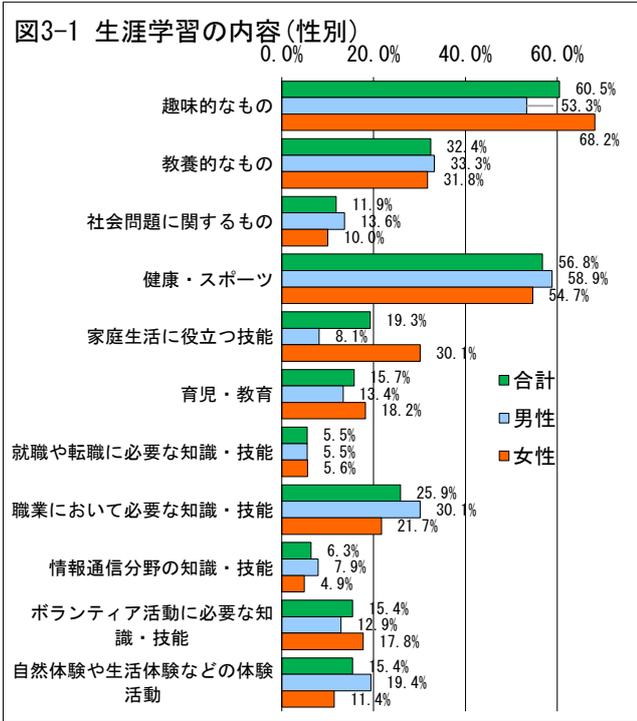
○ 生涯学習を行った場所は「公的機関での講座や教室」次いで「同好会やサークル活動」が多くなっています。(図2-1)

○ 年代別では、60代及び70代の「公的機関での講座や教室」「同好会やサークル活動」の利用率が他の年代と比較して高くなっています。(図2-2)

図2-4 生涯学習を行った場所(人口規模別)

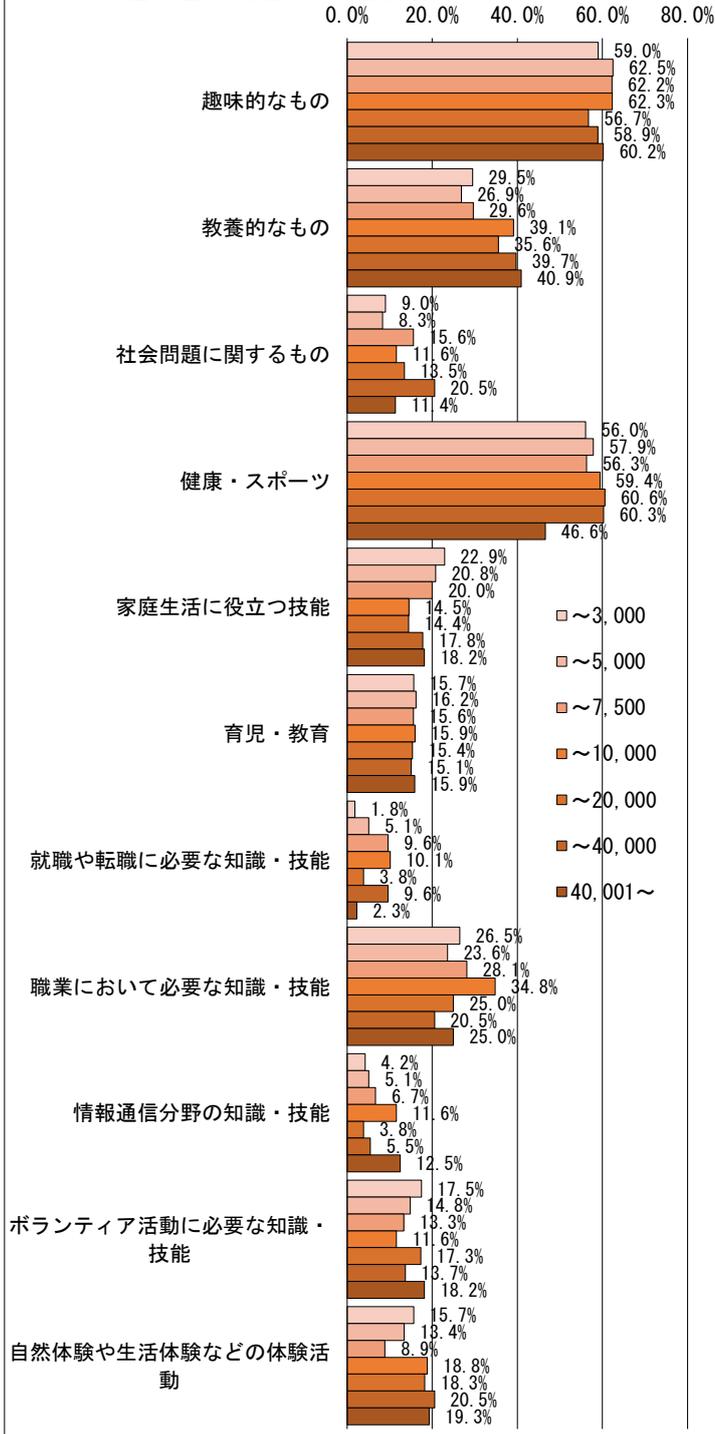


(3) 学びの内容

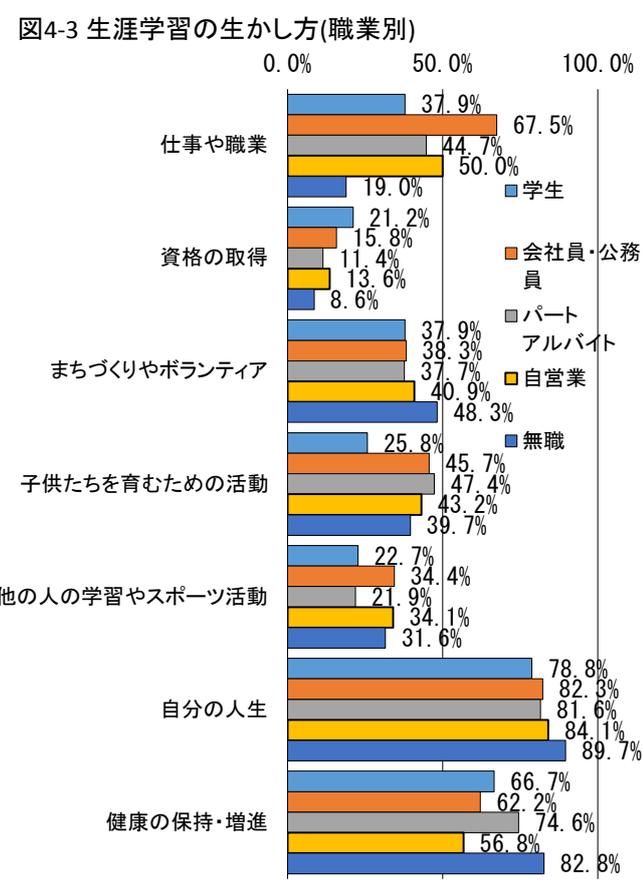
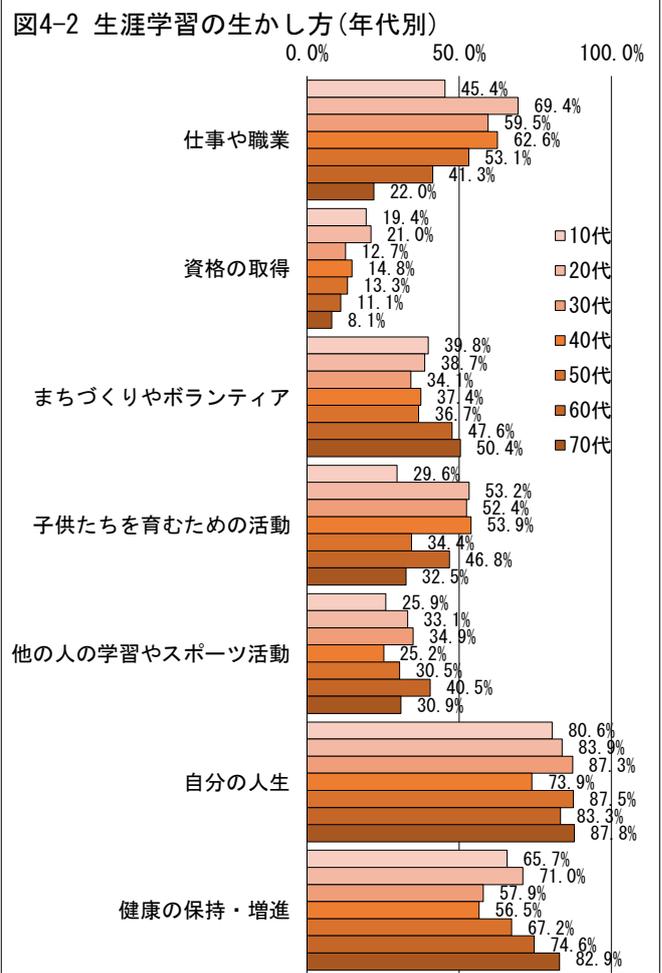
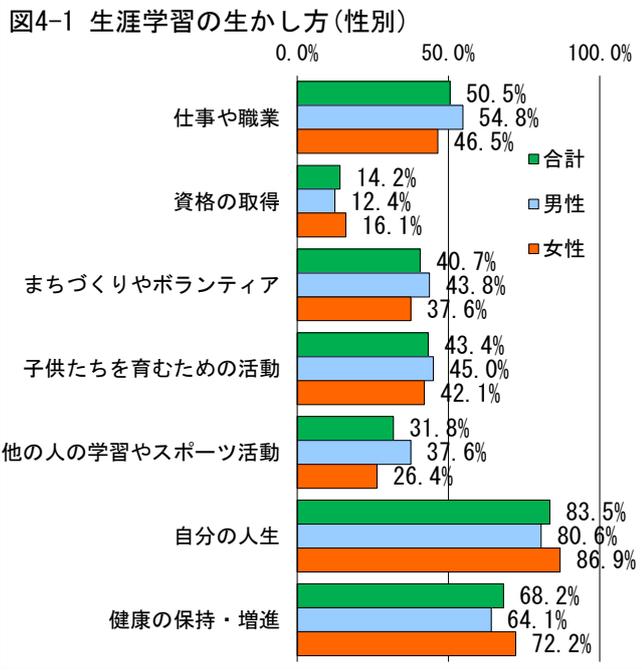


- 男女共に「趣味的なもの」「健康・スポーツ」「教養的なもの」が上位3つを占めていますが、男性4位に「職業において必要な知識・技能」、女性4位は「家庭生活に役立つ技能」となっています。(図3-1)
- 会社員・公務員については「趣味的なもの」に代わって「職業において必要な知識・技能」が3位となっています。(図3-3)

図3-4 生涯学習の内容(人口規模別)

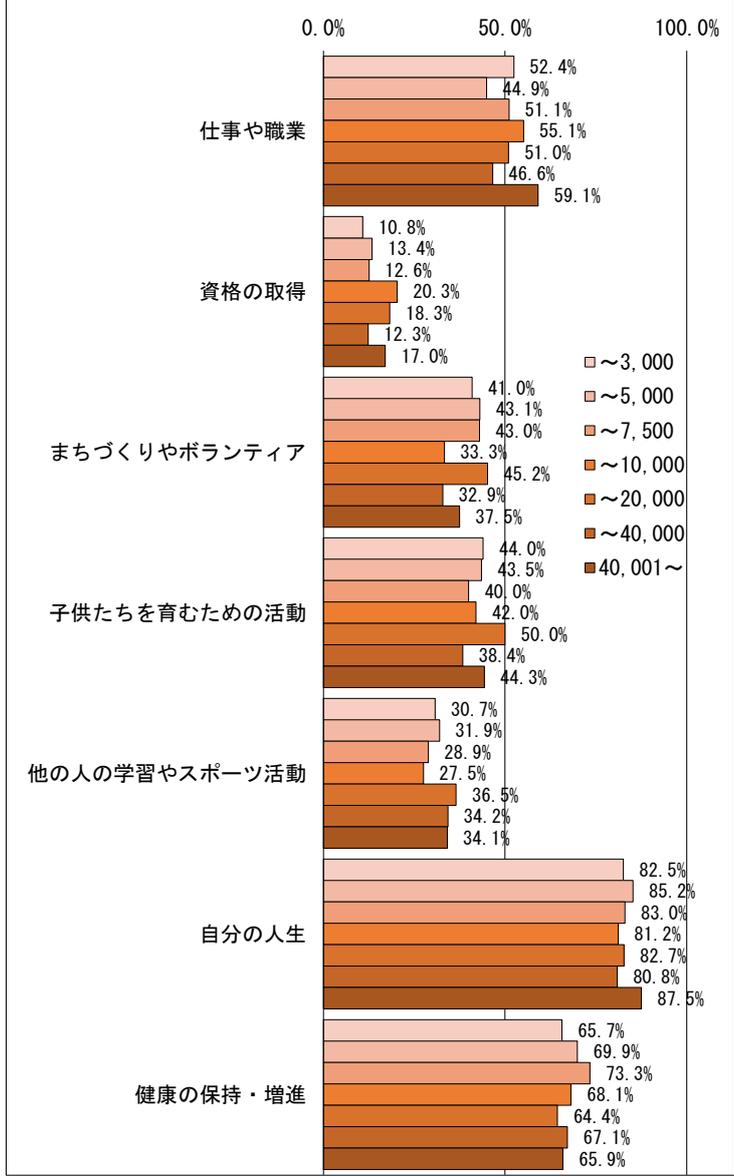


(4) 学習の生かし方

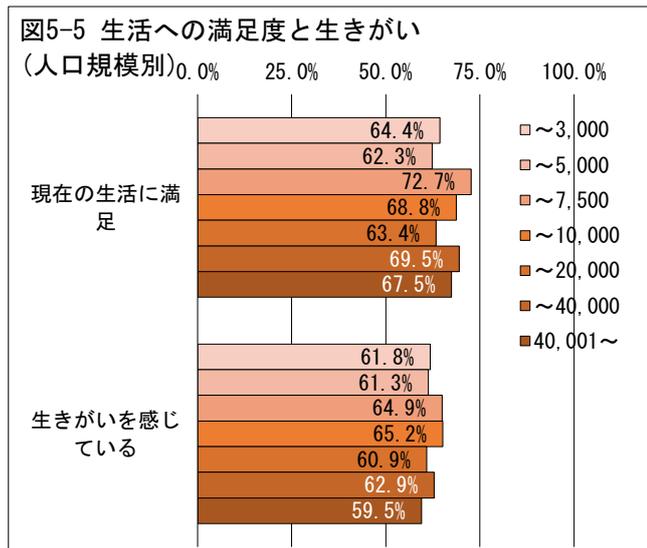
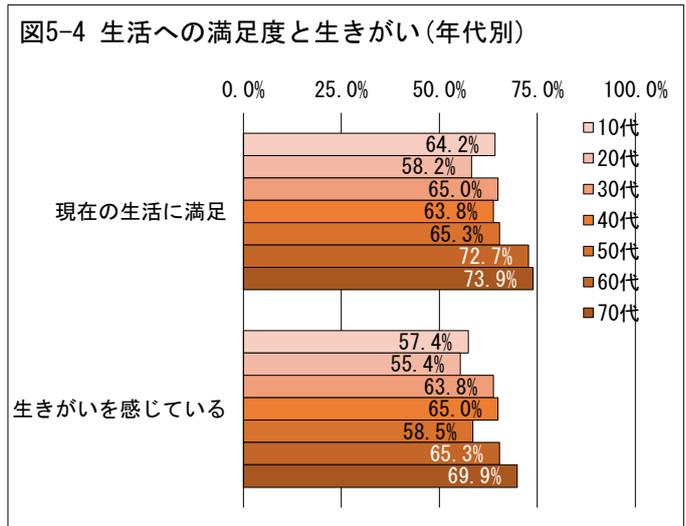
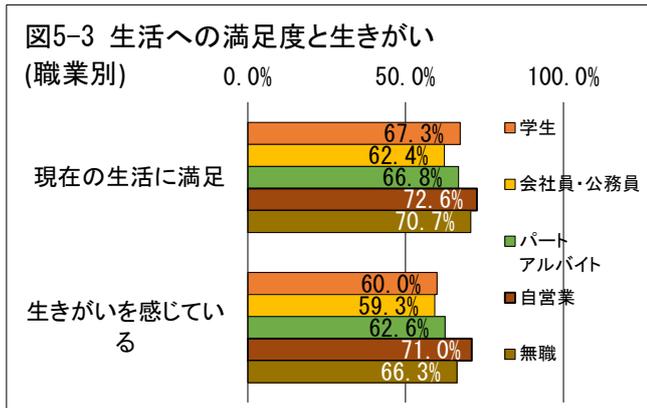
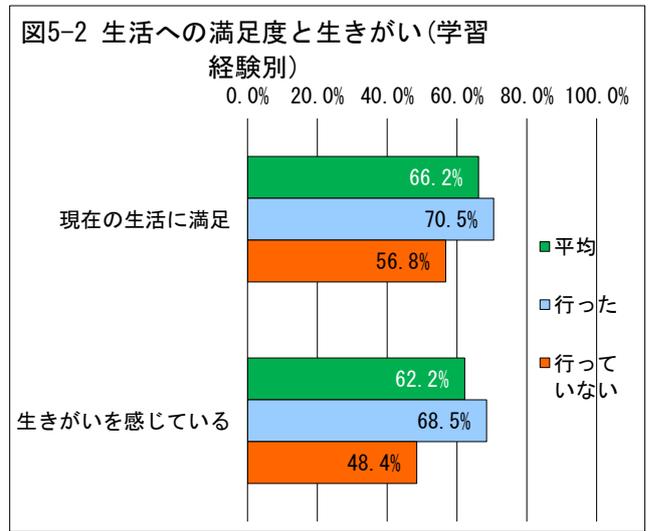
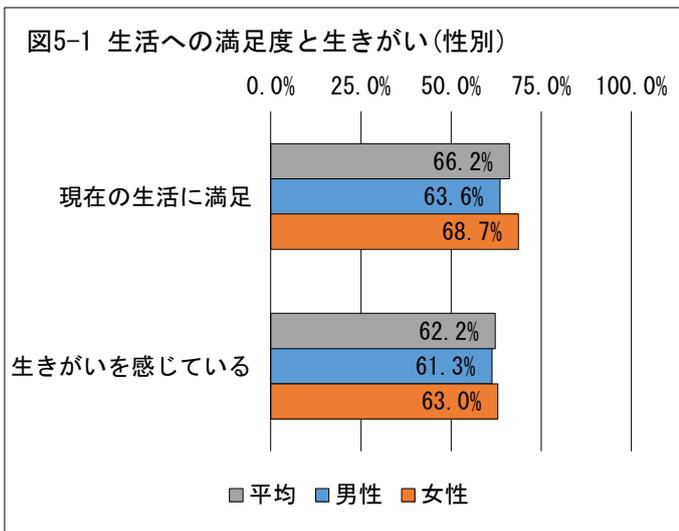


- 全体としては1位から順に「自分の人生」「健康の保持・増進」「仕事や職業」となっており、昨年と傾向は変わりません。(図4-1)
- 60代以上では、特に「健康の保持・増進」についての割合が高くなる傾向があります。(図4-2)
- 職業別では、会社員・公務員の「仕事や職業」の割合が他の職業と比べて高くなっています。(図4-3)

図4-4 生涯学習の生かし方(人口規模別)



(5) 生活への満足度と生きがい



- 今の生活に満足している割合（「とても（満足）している」と「どちらかと言えば（満足）している」の合算値）は全体では66.2%、男性では63.6%、女性は68.7%となっています。生きがいを感じている割合も男性が61.3%、女性は63.0%となっており、「生活に満足している」「生きがいを感じている」共に女性の方が若干高くなっています。（図5-1）
- 生涯学習を行っていると回答した方が「現在の生活に満足している」、「生きがいを感じている」と回答した割合が高くなっています。（図5-2）
- 年代別には、年代が高くなるほど、満足度は高い傾向にあります。（図5-4）

(6) 地域の生涯学習の実態

図6-1 地域の生涯学習の実態 (性別)

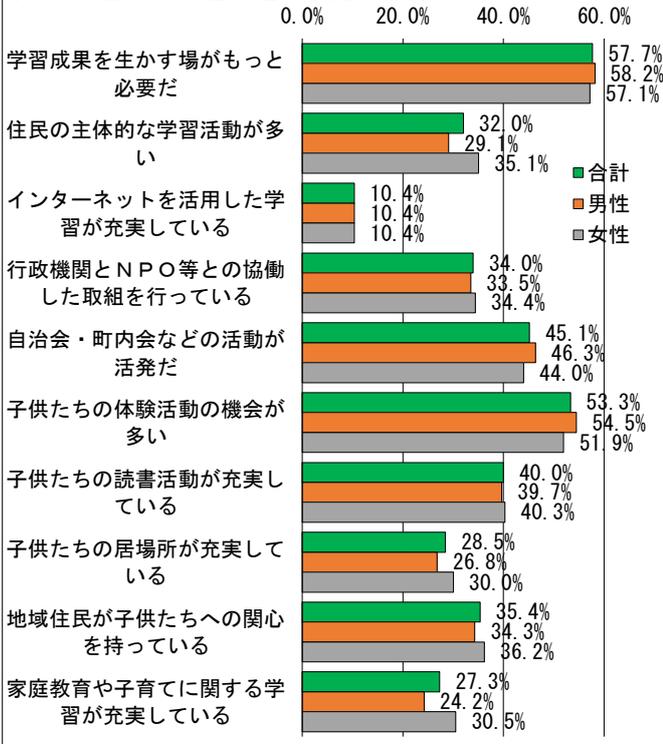


図6-2 地域の生涯学習の実態 (学習経験別)

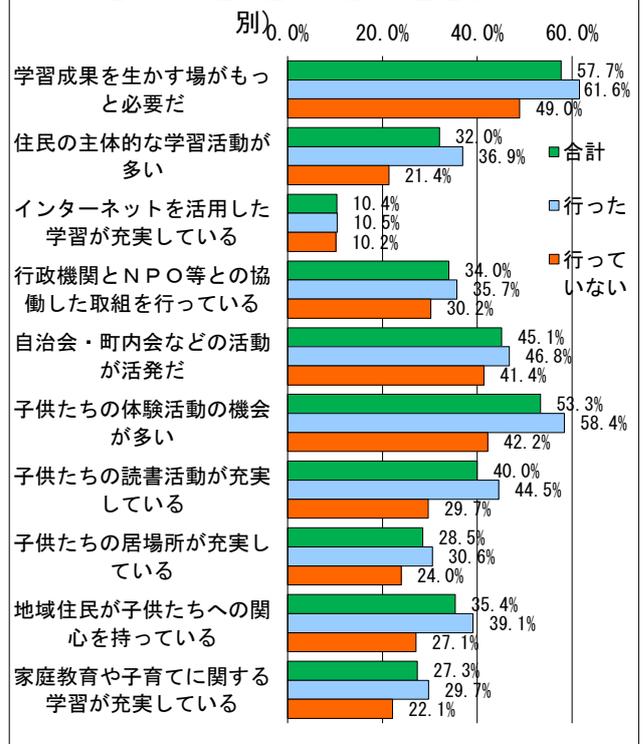
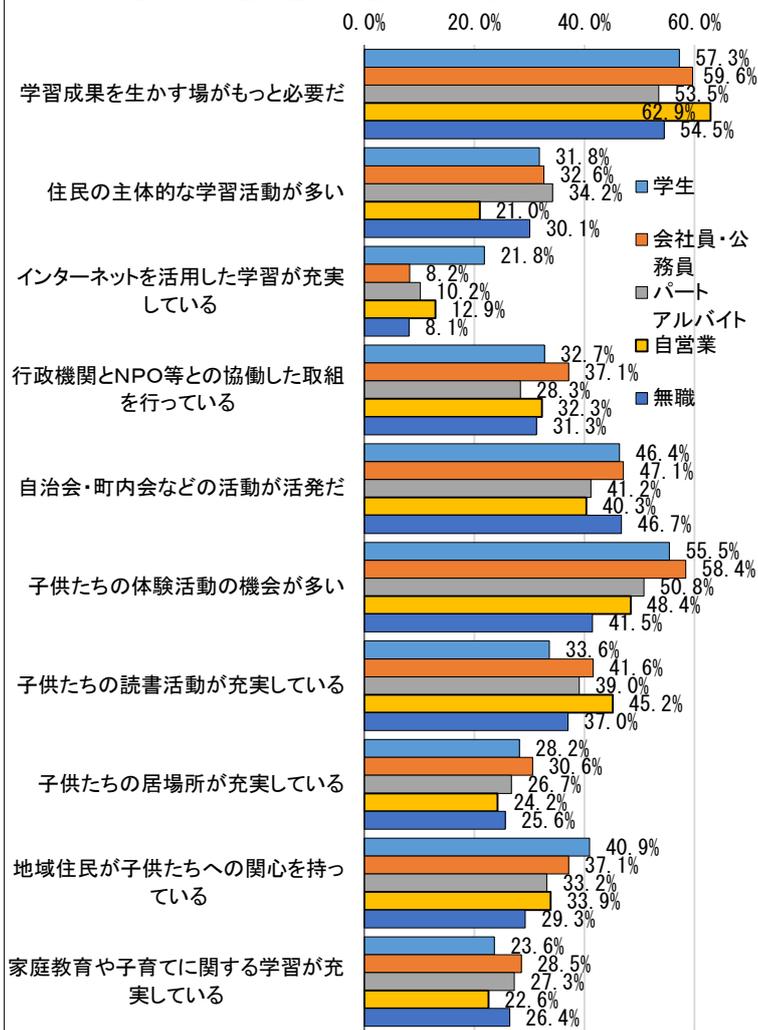
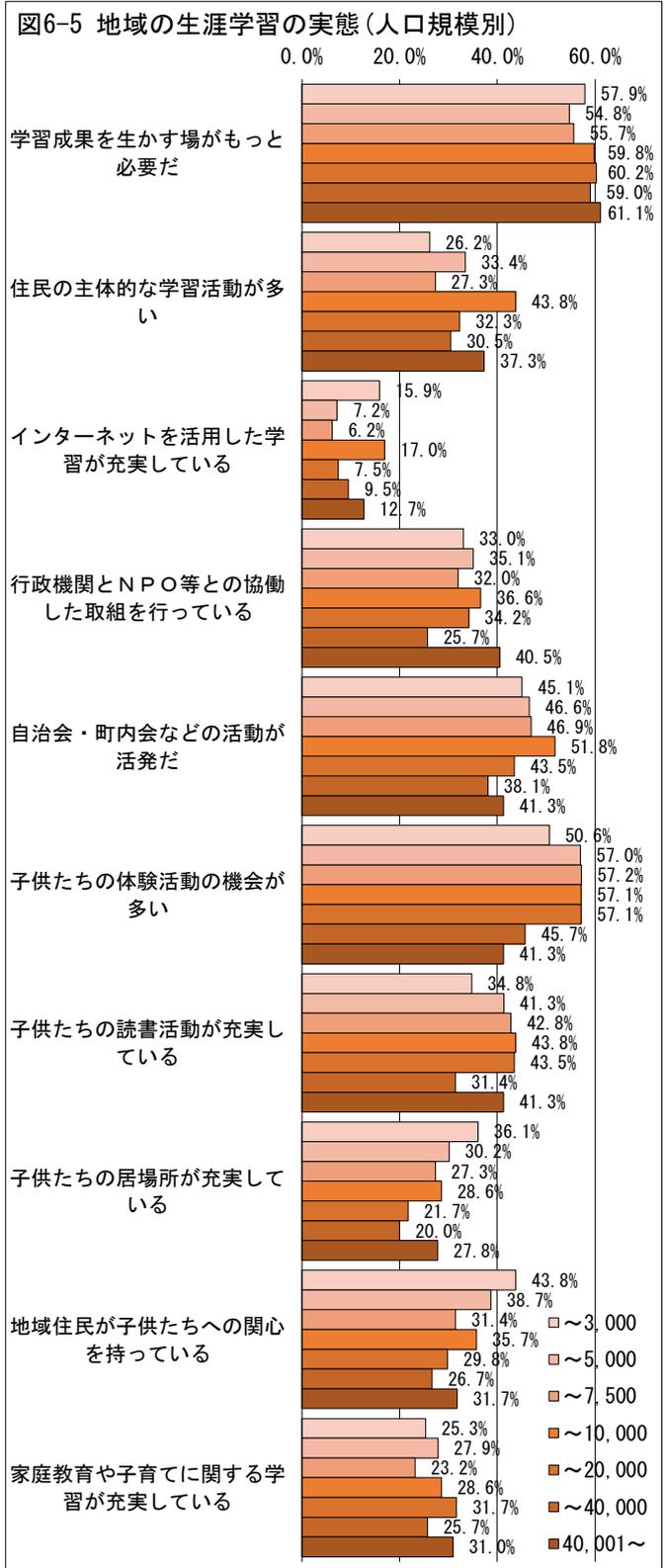
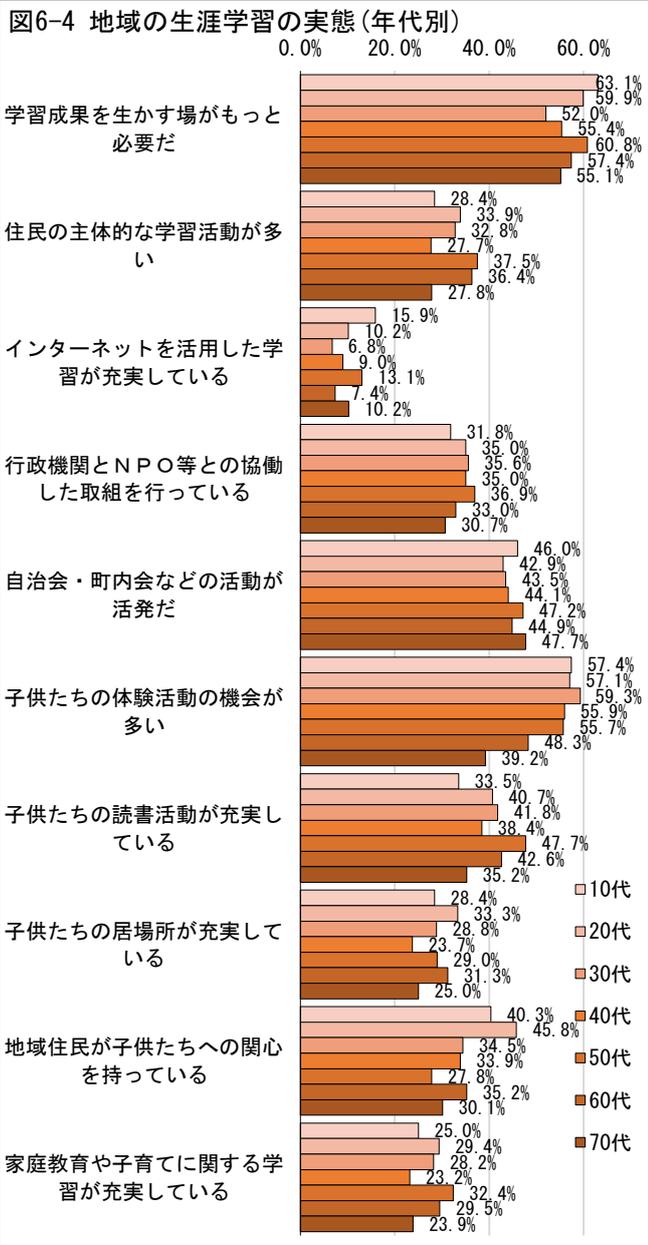


図6-3 地域の生涯学習の実態 (職業別)



○ 地域の生涯学習の実態として、「学習成果を生かす場がもっと必要だ」「子供たちの体験活動の機会が多い」と感じている住民の割合が高くなっています。(図6-1)

○ 生涯学習を行っている方のほうが、「学習成果を生かす場がもっと必要だ」「子供たちの体験活動の機会が多い」と感じている住民の割合がさらに高くなっています。(図6-2)



(7) 地域課題への意識

図7-1 地域課題への意識 (性別)

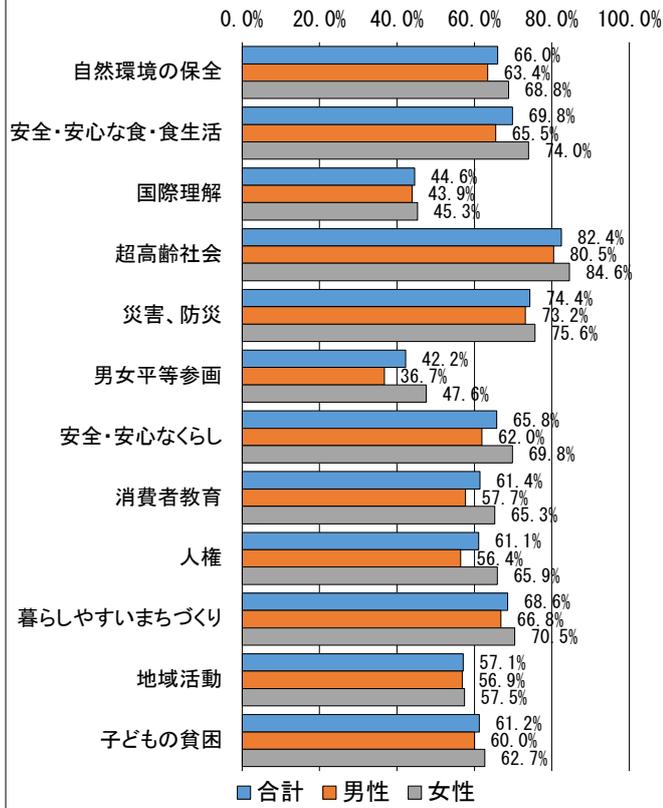


図7-2 地域課題への意識 (学習経験別)

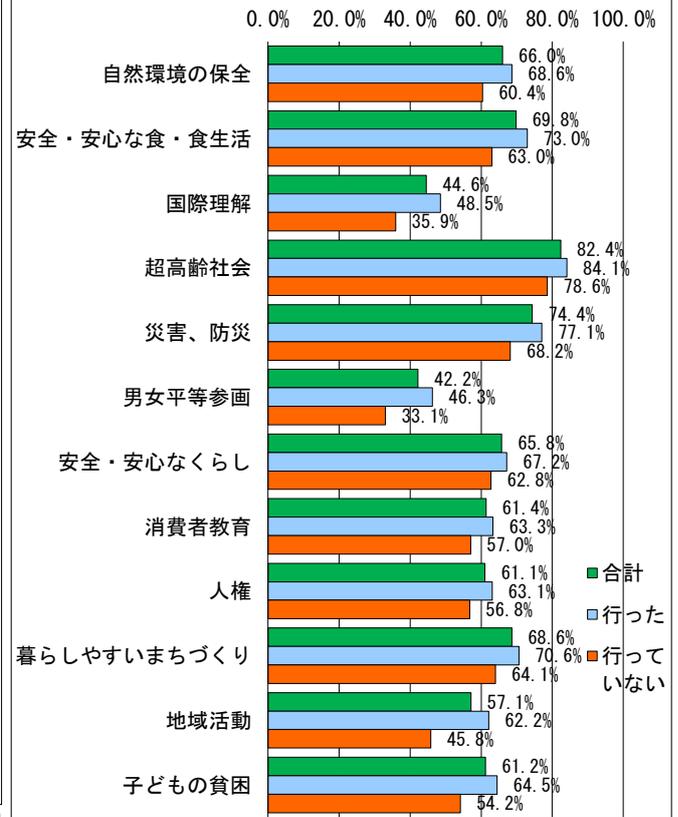
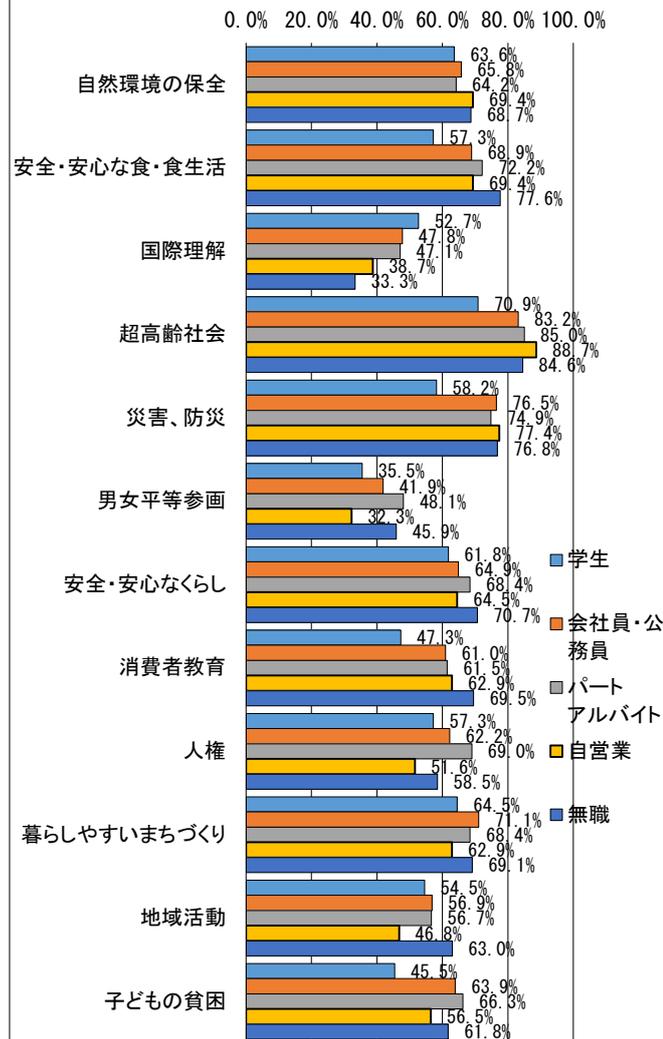


図7-3 地域課題への意識 (職業別)



○ 地域課題への意識は、全体として「超高齢社会」への意識が非常に高く、次いで「災害・防災」、「安全・安心な食・食生活」「暮らしやすいまちづくり」となっています。(図7-1)

○ 地域課題への意識は、どの課題においても、生涯学習を行っている方のほうが、行っていない方よりも高い傾向があります。(図7-2)

図7-4 地域課題への意識(年代別)

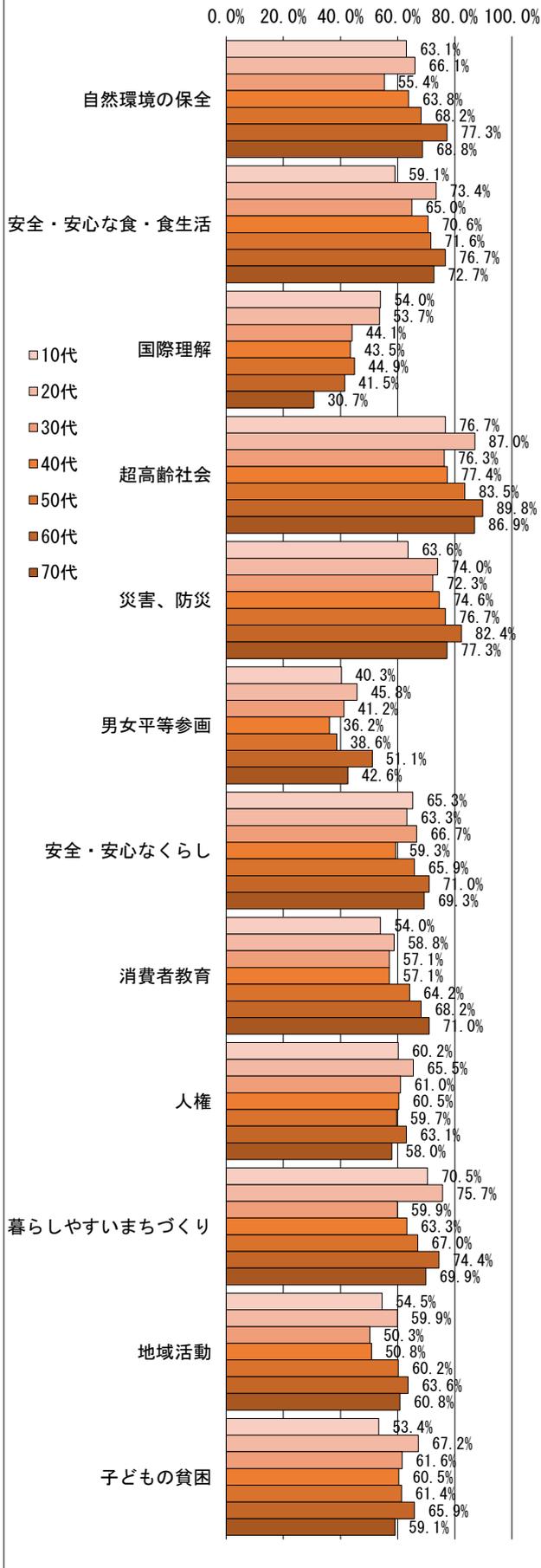
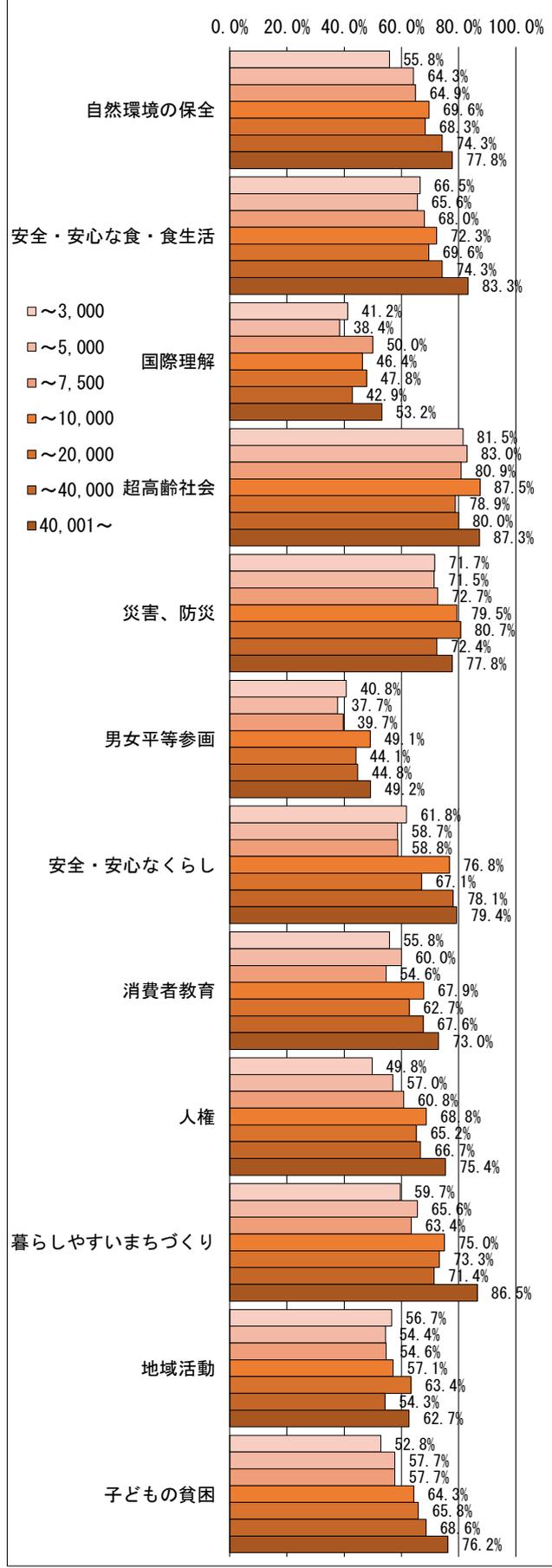
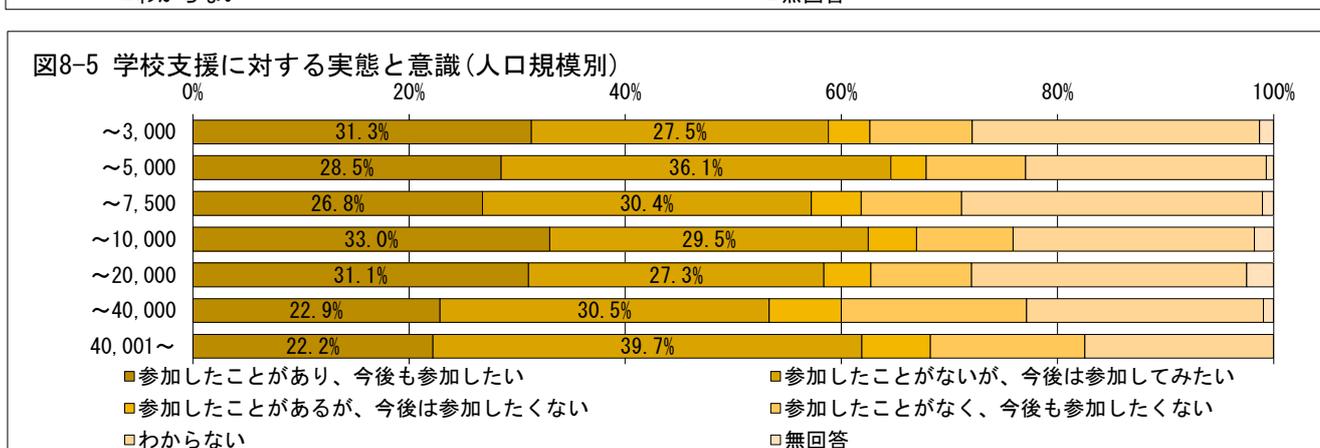
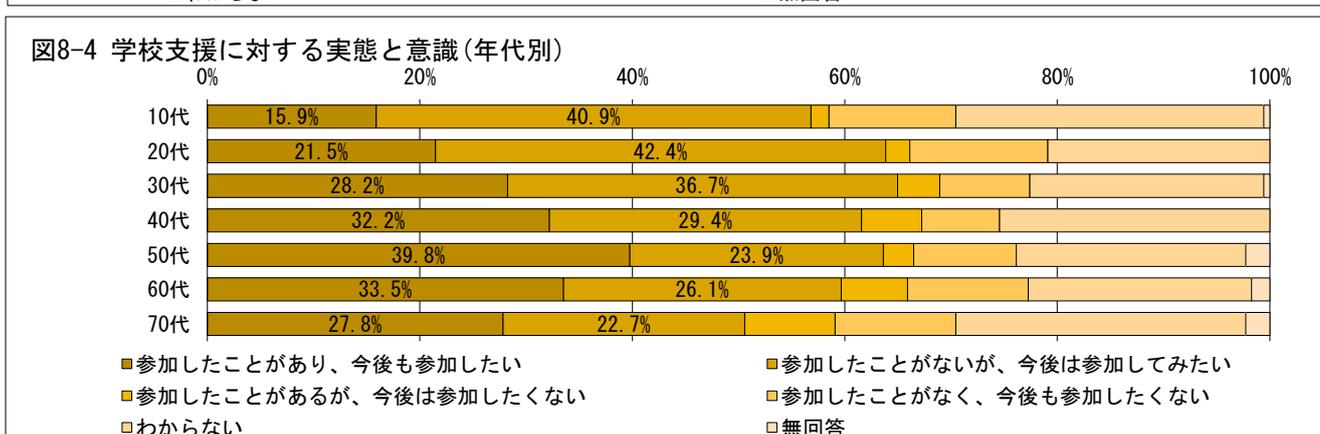
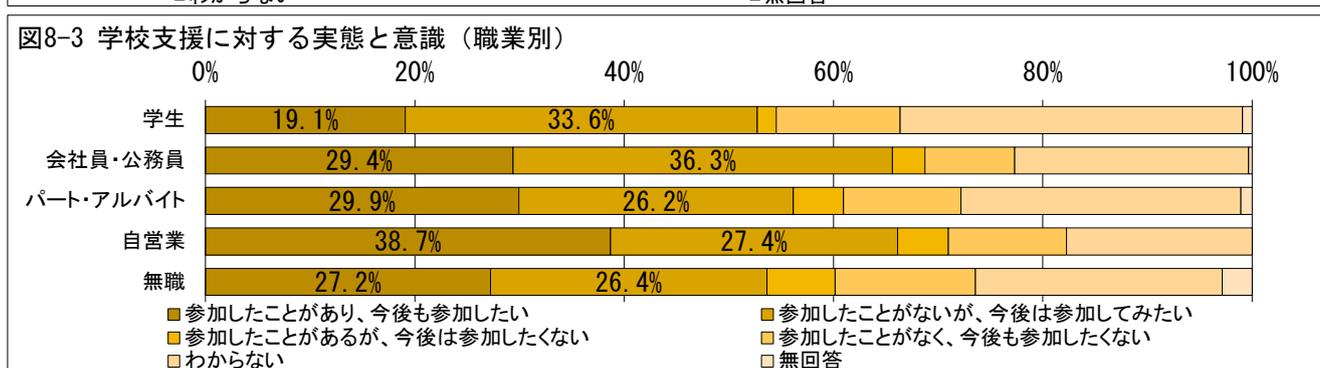
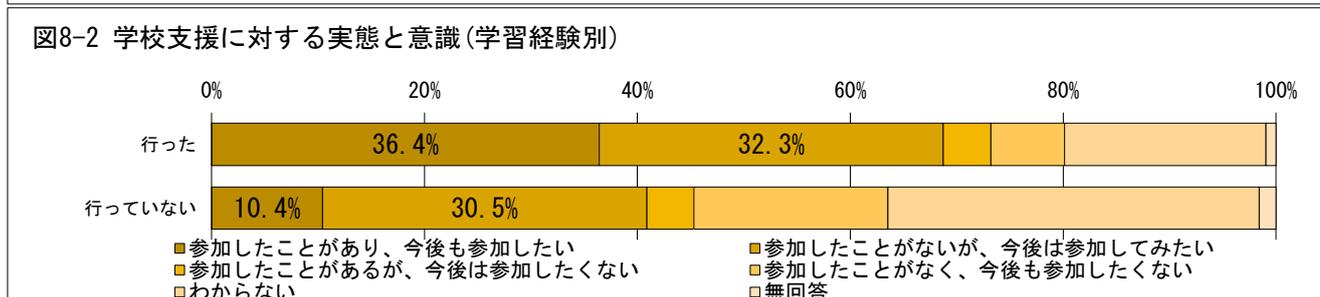
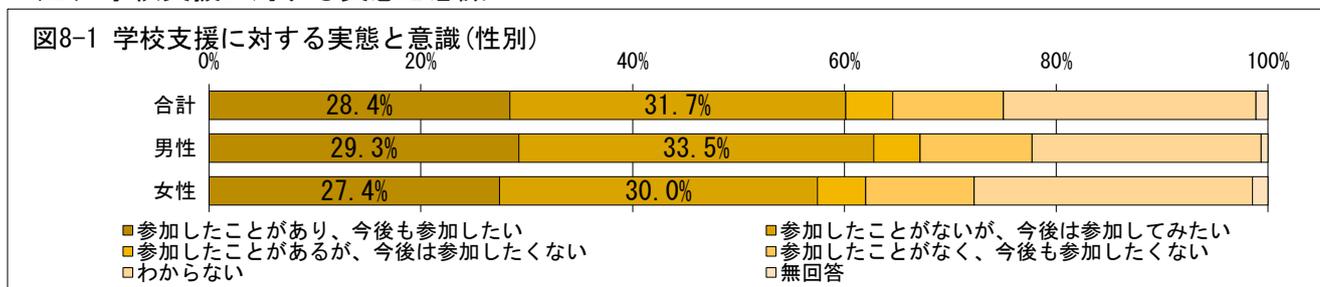


図7-5 地域課題への意識(人口規模別)

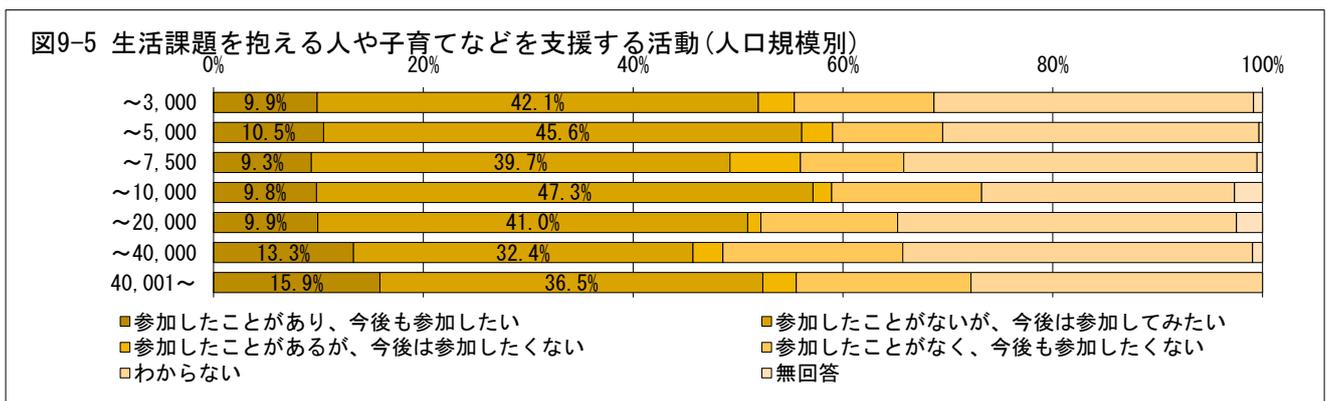
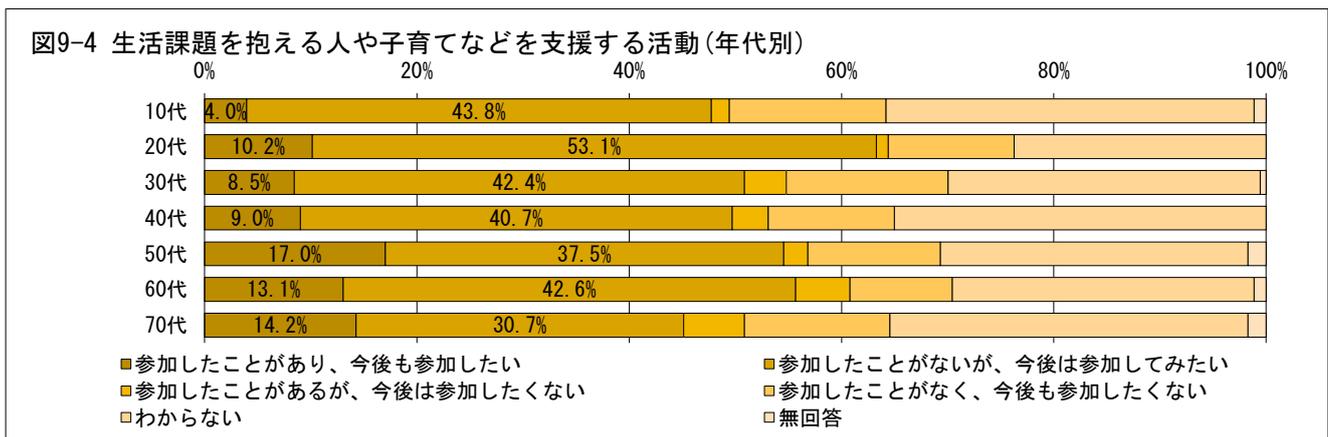
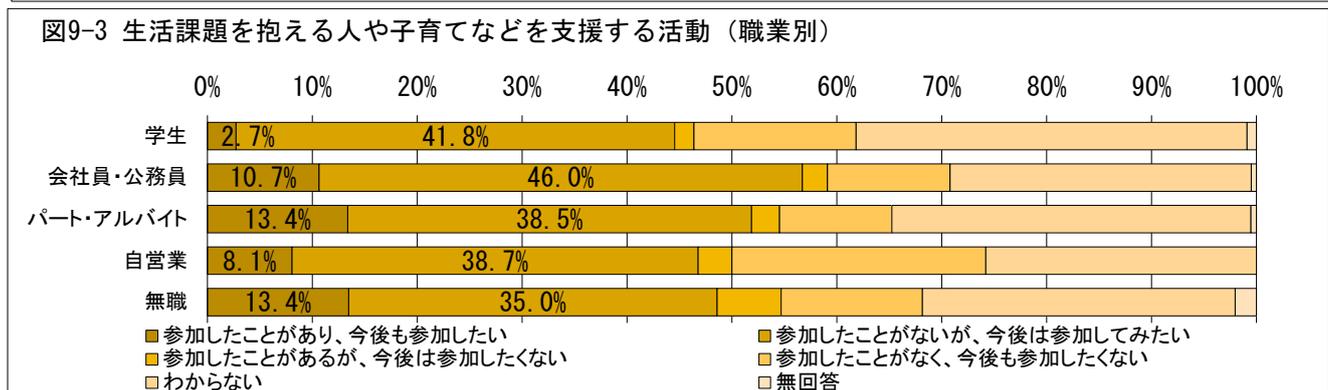
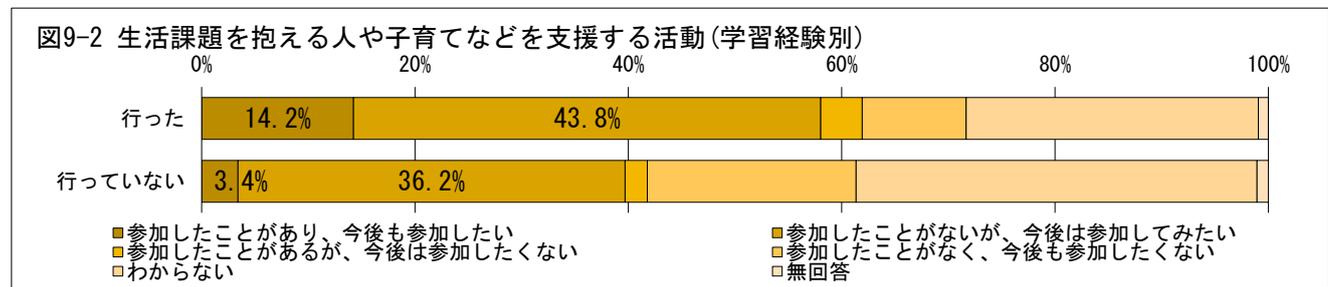
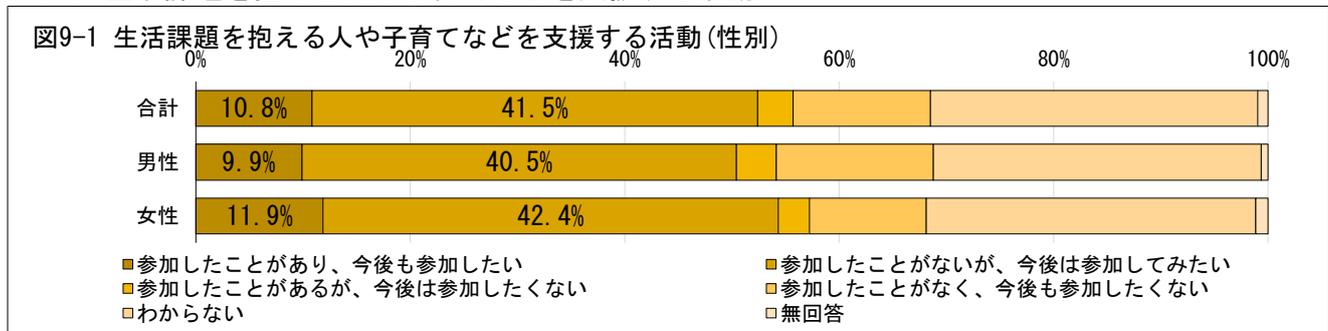


(8) 学校支援に対する実態と意識



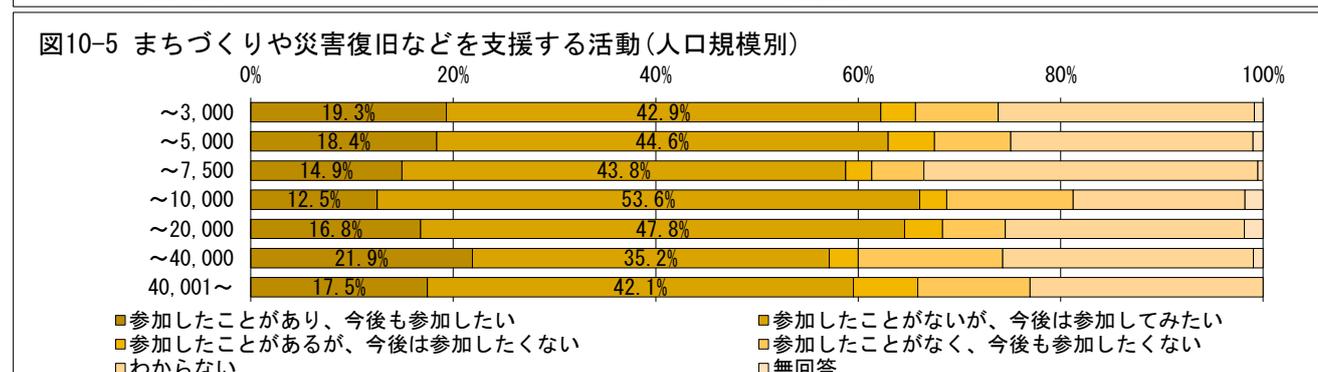
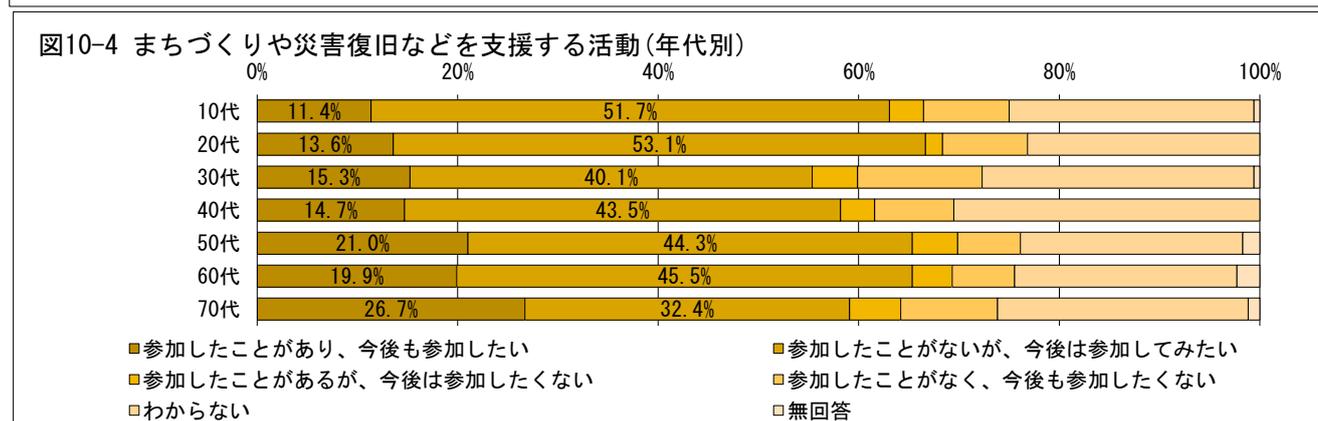
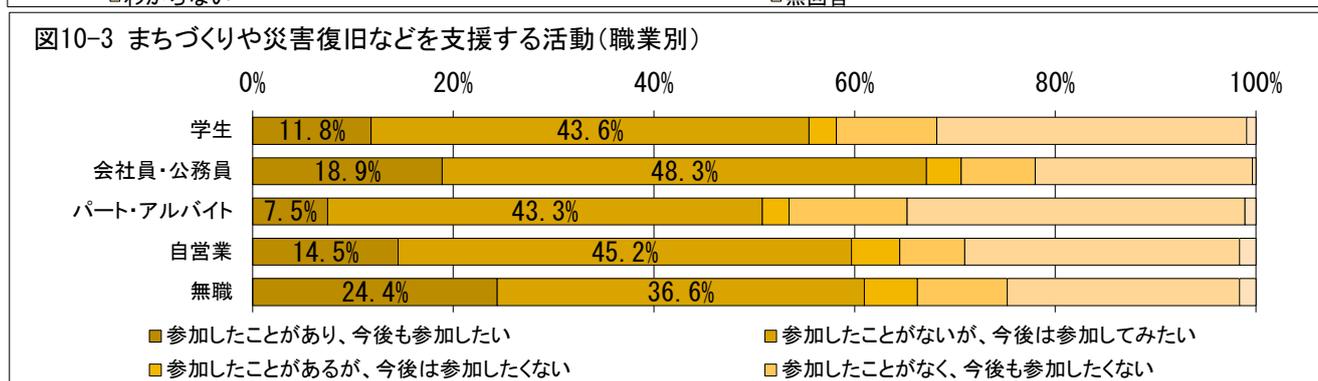
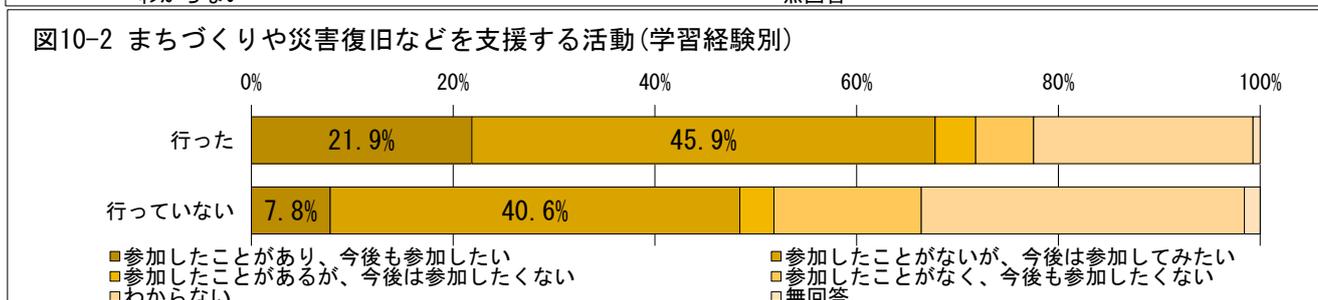
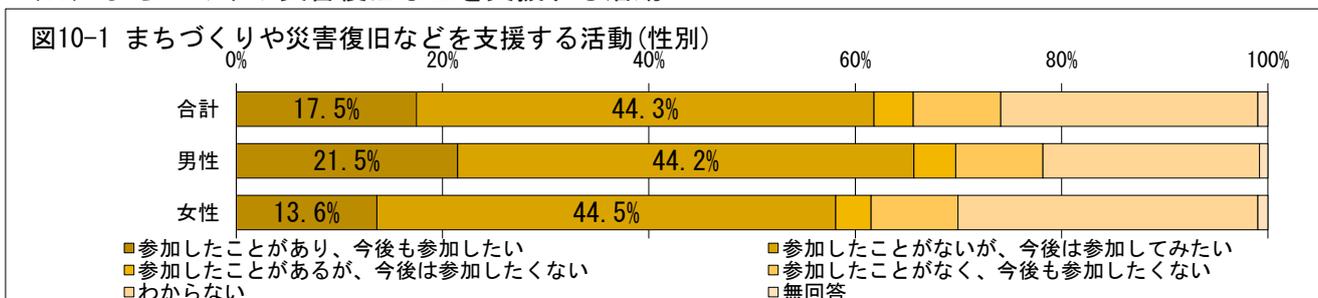
○ 生涯学習を行っている方のほうが、学校支援に対する参加意識が高くなっています。(図8-2)

(9) 生活課題を抱える人や子育てなどを支援する活動



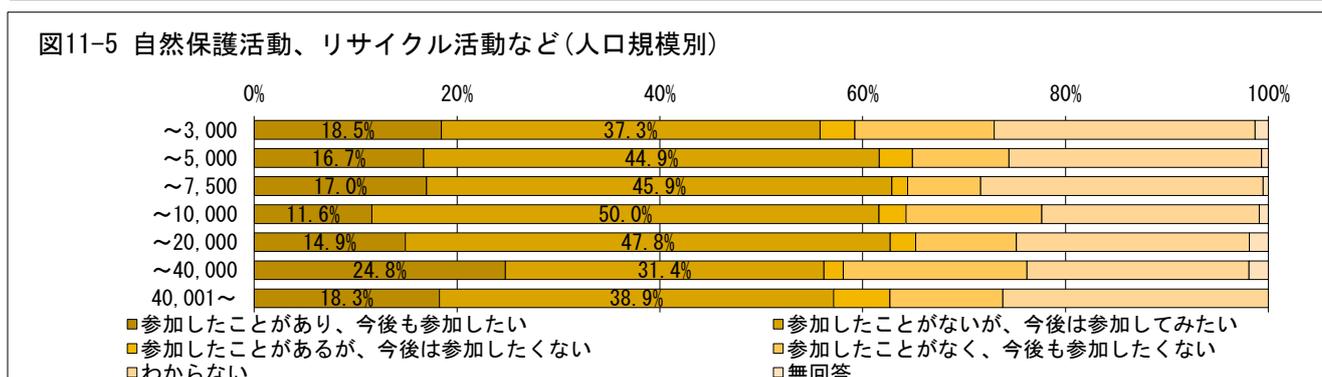
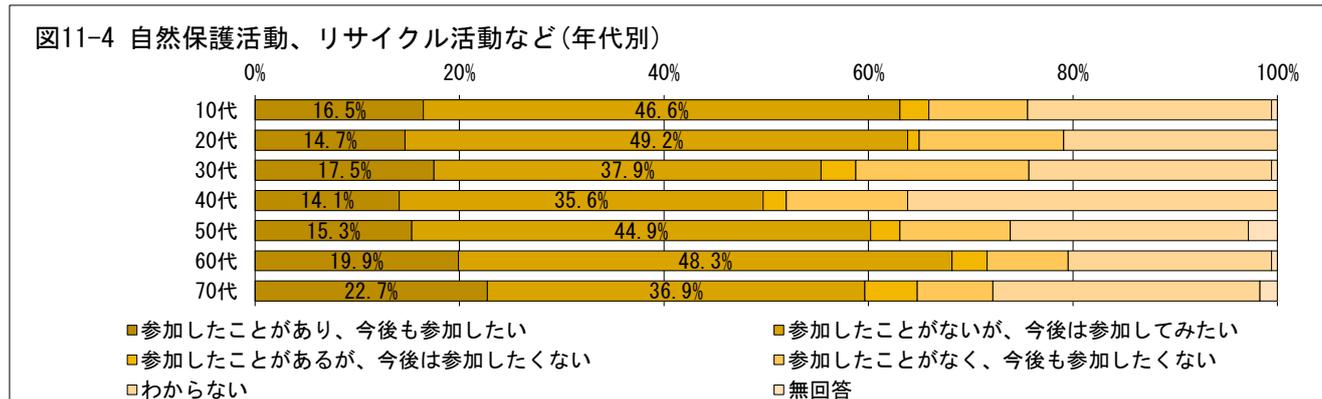
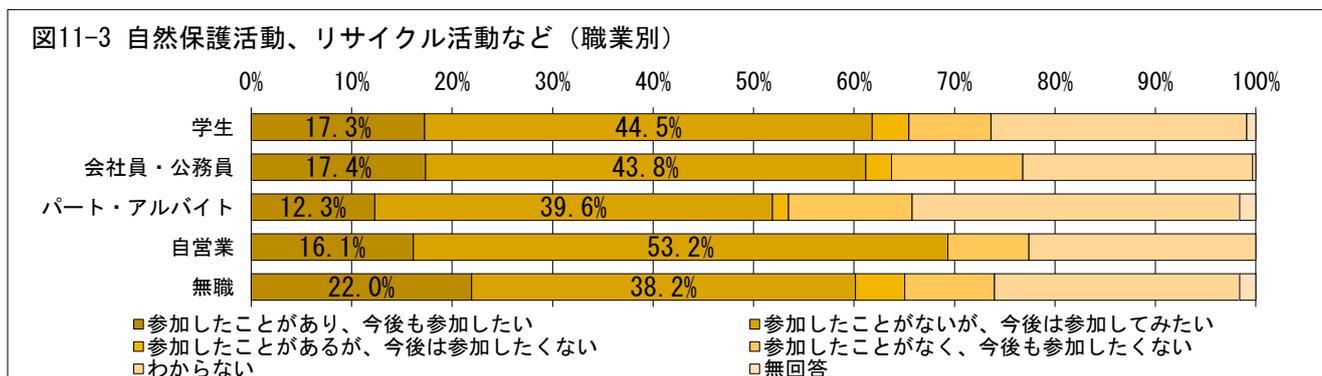
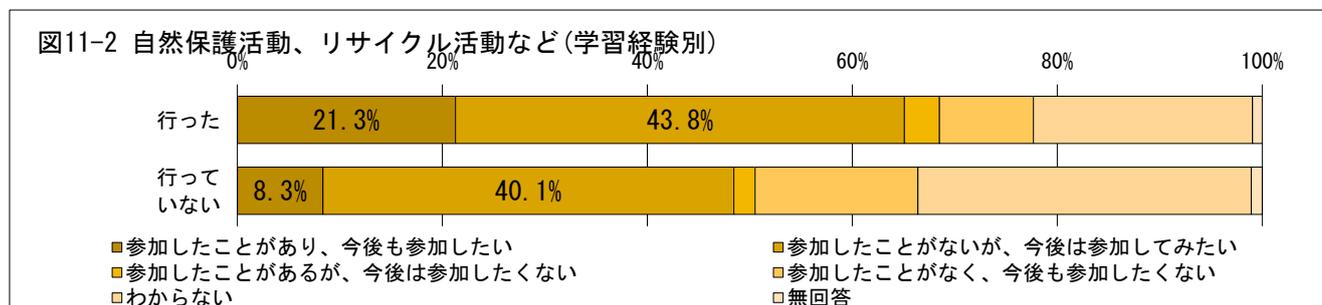
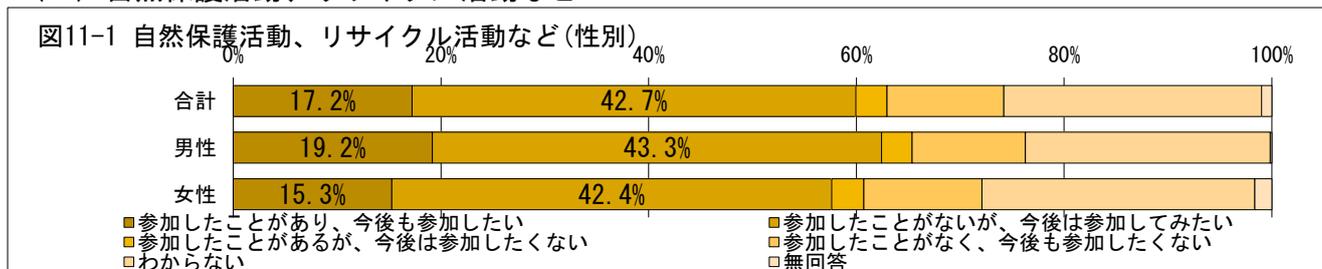
- 生涯学習を行っている方のほうが、支援への参加意識が高くなっています。(図9-2)
- 年代別では、20代の支援への参加意識が高くなっています。(図9-4)

(10) まちづくりや災害復旧などを支援する活動



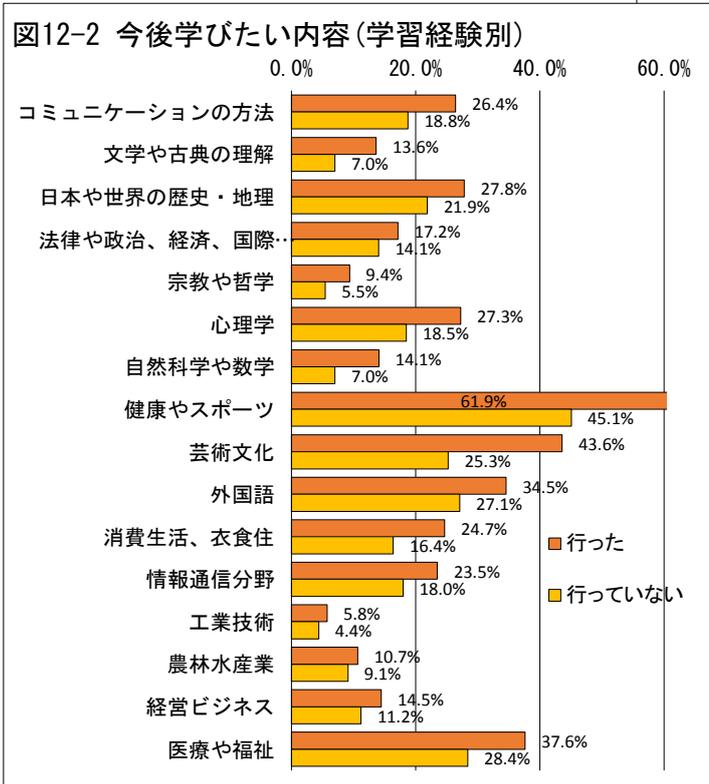
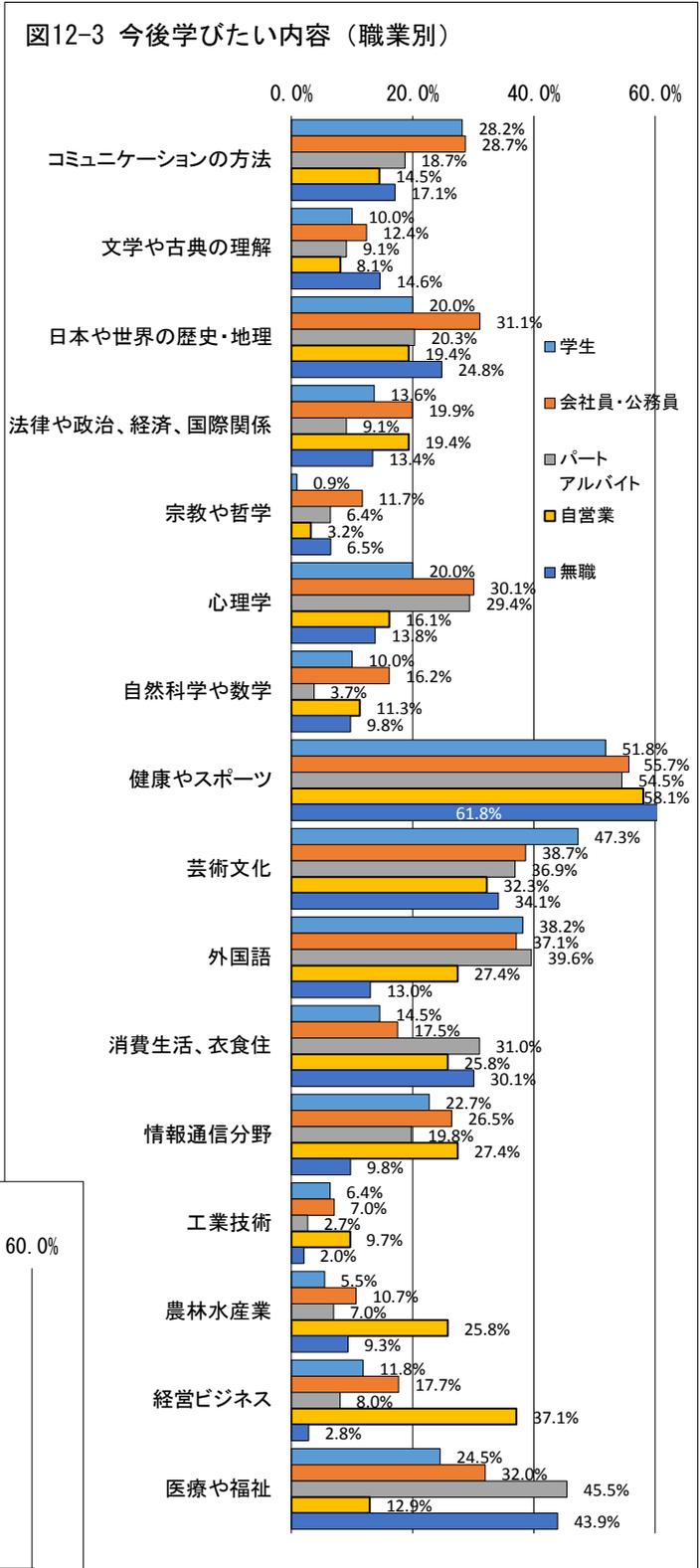
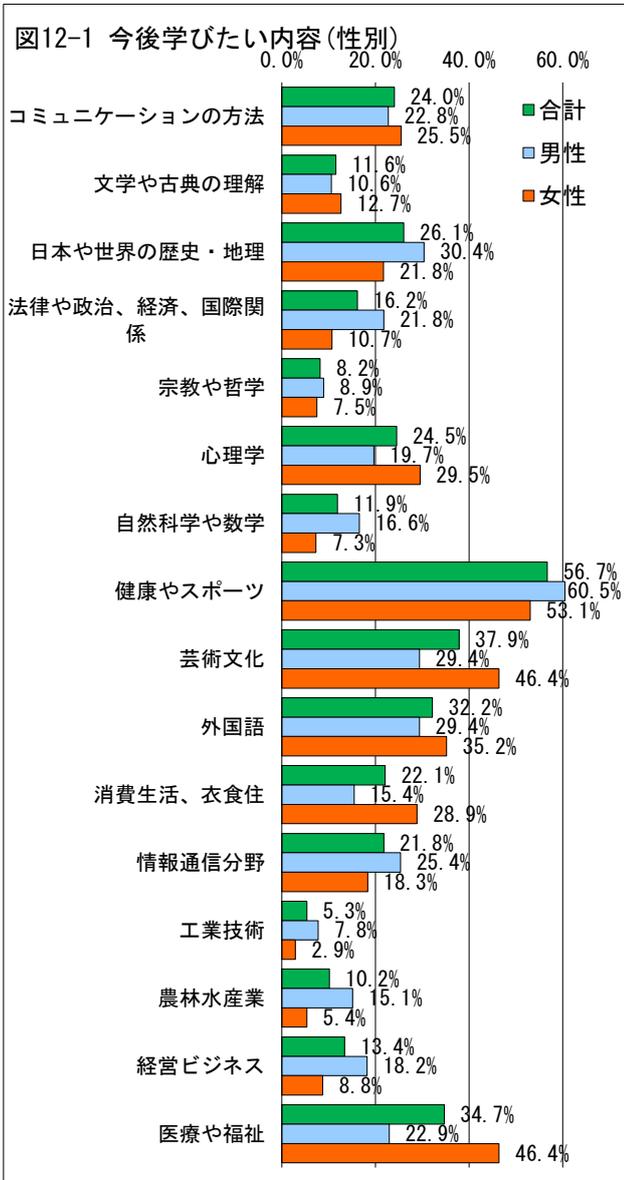
- 生涯学習を行っている方が、支援への参加意識が高くなっています。(図10-2)
- 年代別では、10代及び20代の「今後は参加してみたい」という意識が高くなっています。(図10-4)

(11) 自然保護活動、リサイクル活動など



○ 生涯学習を行っている方のほうが、支援への参加意識が高くなっています。(図11-2)

(12) 今後学習したい内容



○ 今後学びたい内容として、「健康やスポーツ」の割合が非常に高くなっており、男女別では、男性が「健康・スポーツ」に次いで、「歴史・地理」「芸術文化」「外国語」の割合が高い傾向となっていますが、女性は「健康・スポーツ」に次いで、「芸術文化」「医療や福祉」「外国語」となっています。(図12-1)

図12-4 今後学びたい内容(年代別)

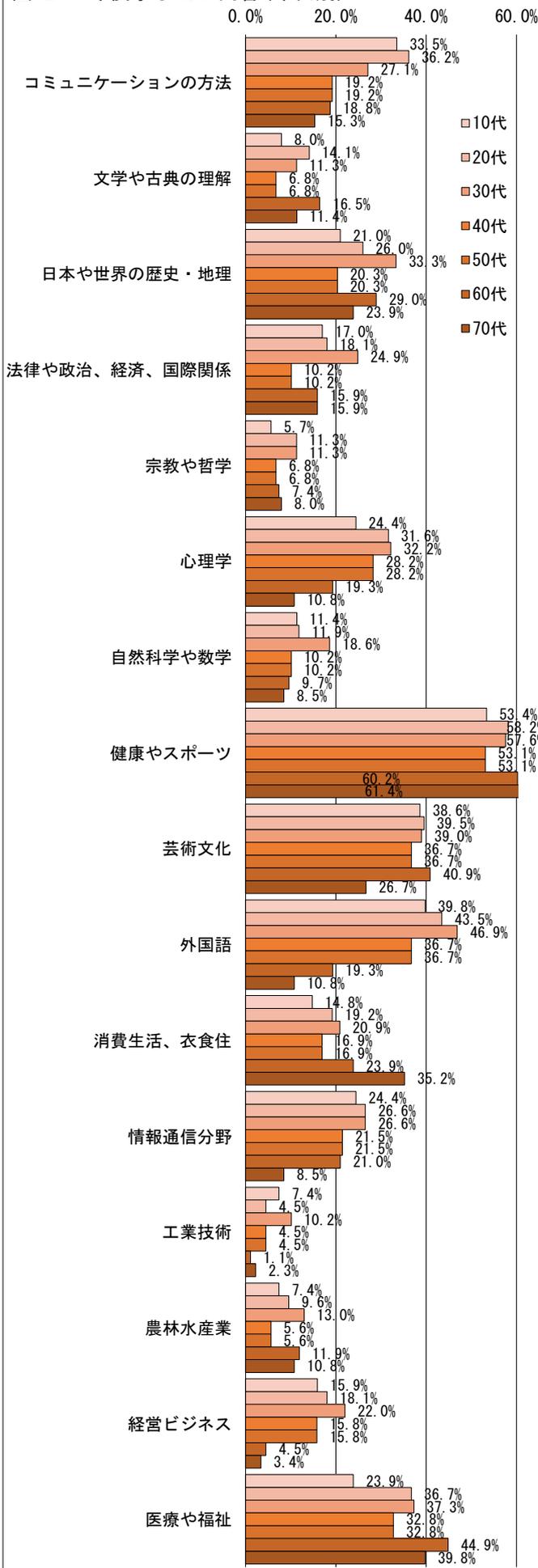
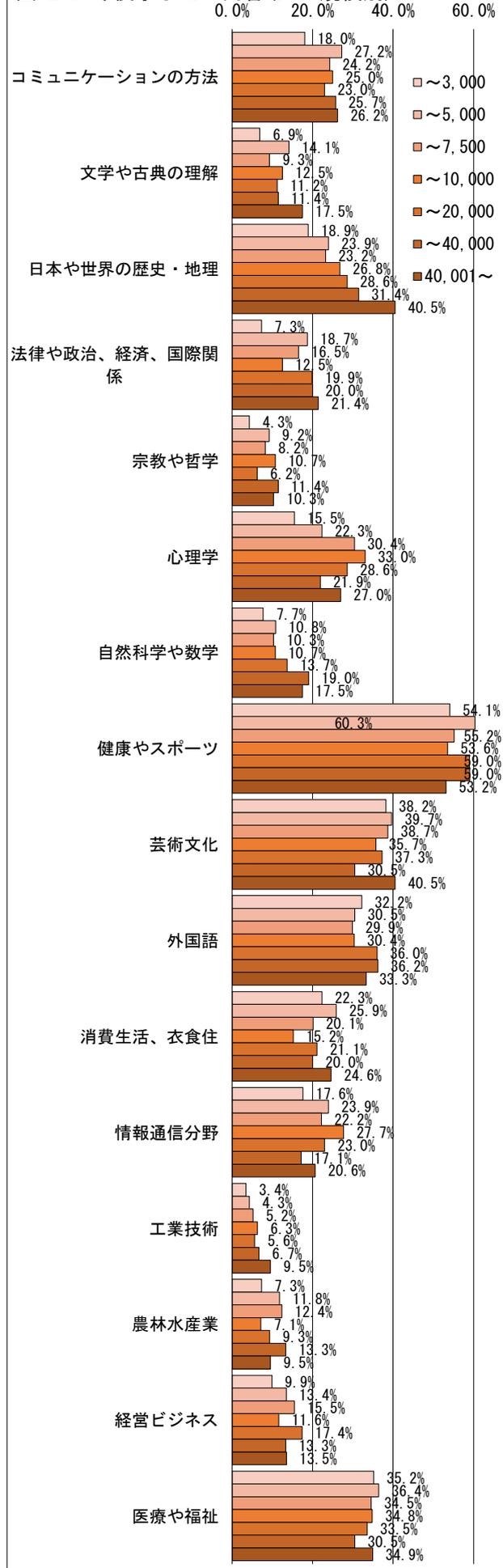


図12-5 今後学びたい内容(人口規模別)



(13) 調査対象者の状況

図13-1 対象者市町村人口規模別職業分布

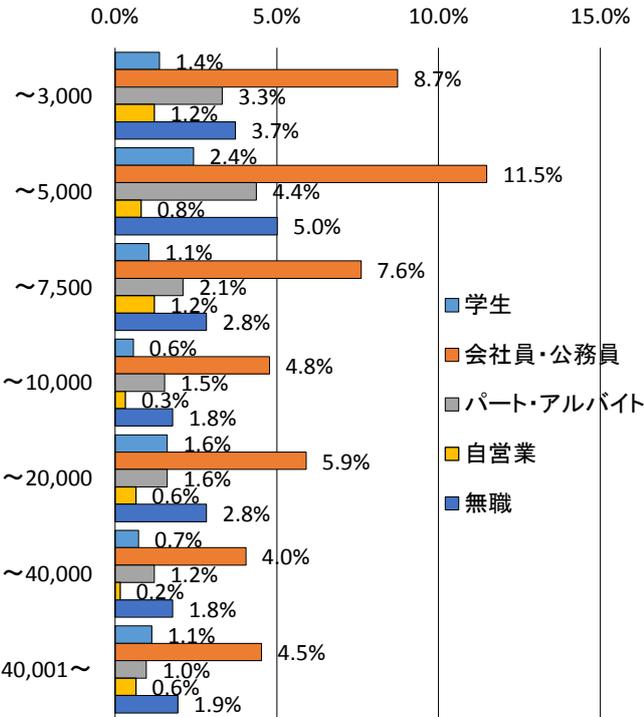


図13-2 対象者年代別職業分布

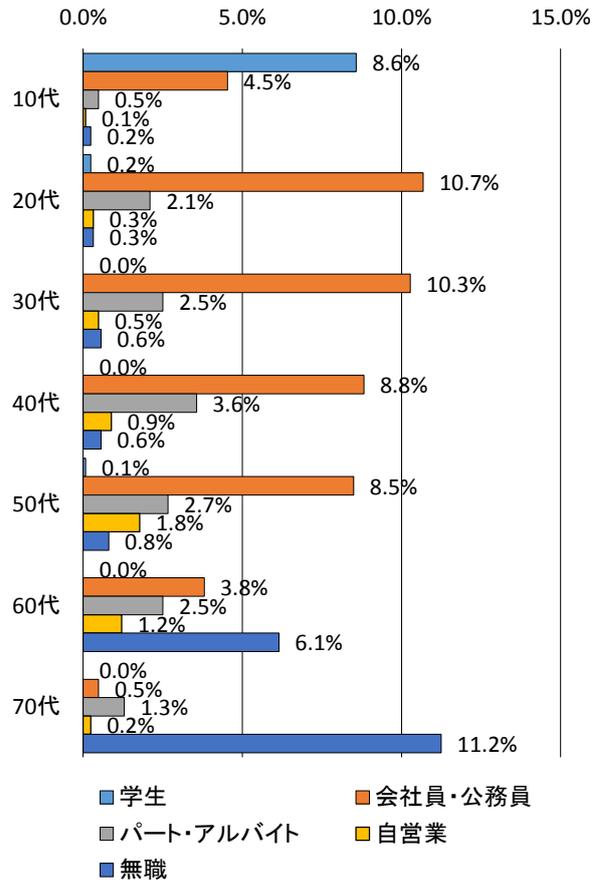


図13-3 人口規模別調査人数

